

関東短期大学紀要

第 58 集

<実践報告>

オレンジリボン運動への参加は児童虐待への理解を深めるか

—「教育・保育相談支援」の受講生を対象として—

松尾由美 (1)

<論文>

外国籍のこどもとその保護者への情報保障にむけた保育者養成校言語関連科目での「やさしい日本語」の導入の試み—「保育内容・言葉」「国語」「日本語表現」を中心として—

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中野真樹 (7)

保育者養成校におけるピアノ指導の在り方 —読譜に関する能力育成を図るため—

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・林智草 (18)

<研究資料>

2015 年度関東短期大学キャンパスことばの調査報告

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中野真樹 (26)

<付設機関活動報告>

平成 27 年度 ヴェルボトナル言語教育研究所活動報告 (63)

平成 27 年度 こども研究センター活動報告 (64)

2016.3

オレンジリボン運動への参加は児童虐待への理解を深めるか

—「教育・保育相談支援」の受講生を対象として—

松尾由美

1. はじめに

連日のように、子どもへの虐待に関する事件が報じられている。平成26年度における児童虐待相談対応件数は、8万8991件であり、年々増加傾向にある。さらに児童相談所に寄せられた児童虐待に関する相談経路として、警察(33%)に次いで、近隣知人(18%)が2番目に多く、一般市民も子どもへの虐待の第一発見者となる可能性が高いことが示唆される(厚生労働省, 2015)。このような状況の中、2015年7月からは「189」という短縮ダイヤルも準備され、児童虐待だと疑わしい事例を発見した人が素早く児童相談所等に報告できるような体制づくりも進んでいる。一般の人々の児童虐待への関心が高まった一因として、子どもへの虐待に関する問題への社会的関心を高めるために行われてきた『オレンジリボン運動』が挙げられる。さらに、近い将来親となりうる若い世代の児童虐待問題への関心を高め、虐待の予防につなげていくことを目的に、2013年度より「学生によるオレンジリボン運動」が実施されている。

2. 本研究の目的

これまでの先行研究において、「学生によるオレンジリボン運動」への様々な取り組みが報告されている。例えば、辻尾・加藤(2013)は、学園祭においてオレンジリボン運動を実施し、配布したオレンジリボンの学生の着用率とオレンジリボン運動に関する知識や意識を調べる調査を実施した。その結果、オレンジリボンを着用した学生のオレンジリボン運動への理解が高まることが示された。このように「学生によるオレンジリボン運動」の啓発の効果は検討されている一方で、オレンジリボン運動の担い手となった学生への影響を実証的に評価したものは見当たらない。学生によるオレンジリボン運動の目的として、運動の担い手となった学生自身の関心を高めることもねらいの一つであると考えられる。松尾・桑原(2015)では、学生によるオレンジリボン運動に参加した有志学生による学園祭来場者の児童虐待への理解が深まるような資料作りを通じた「他者に伝える」という経験が、子ども虐待への理解向上や態度変容をもたらす可能性を指摘している。松尾・桑原(2015)は有志の学生数名を対象としており、サンプル数が少なく、その効果を統計的に検討する

ことはできなかった。そこで、本稿では保育者養成校の学生を対象に、オレンジリボン運動への参加が、子どもへの虐待に対する理解を深めるかどうか、統計的に検定を行い参加前後の知識を比較することで、学生の運動参加の有効性を検討することを目的とした。

3. 方法

3. 1 対象者

保育者養成のための短期大学において「教育・保育相談支援」を受講している2年生133名が、「学生によるオレンジリボン」に参加した。また、運動参加前・後に、後述する子どもへの虐待に関する知識を問う項目に回答を求めた。本稿では、両調査に参加した82名を分析の対象とした。

3. 2 手続き

(1) オレンジリボン運動の準備

4～6名のグループに分かれ、2015年10月24・25日に開催されたアザリア祭(学園祭)来場者に虐待に関する理解や関心を深めてもらうことを目的に虐待防止のための啓発活動を行った。アザリア祭での発表に向けて、教育・保育相談支援の3回の授業時間や授業以外の時間を使って、各グループで準備をすすめた。具体的には、子どもへの虐待に関する情報(種類や相談先等)を記載したチラシやポスターの作成、虐待された子どもや虐待をしてしまう親の気持ちを伝える絵本の作成、虐待に関するクイズ、配布用オレンジリボンの作成等であった。

(2) オレンジリボン運動の実践

アザリア祭期間中、心理学をテーマとした展示部屋の一角にオレンジリボン運動のコーナーを設けた(図1参照)。教員と来場者には、あらかじめ投票用紙を配布し、最も良かったと思った展示物に投票するように求めた。



図1 アザリア祭での学生によるオレンジリボン運動の様子

(3) 子ども虐待に関する理解度の測定

子どもへの虐待に関する理解度を測定するため運動の参加前(教育保育相談支援の第1回授業時。以下 t1 と略記。)、参加後(アザリア祭が終わってから最初の教育保育相談支援の授業時。以下 t2 と略記。)の2回、受講生に後述する項目を尋ねた。

3. 3 調査項目

(1) オレンジリボン運動の認知

オレンジリボン運動という言葉を知っているか、知っている場合にはその言葉を説明するよう求めた。子どもへの虐待防止のための運動であると回答した場合に正答とした。

(2) 児童相談所全国共通ダイヤル

子どもへの虐待に関する相談を受け付けている児童相談所全国共通ダイヤルは何番か、尋ねた。「189」と回答した場合を正答とし正答者数を算出した。

(3) 児童虐待の種類数

「児童虐待の防止等に関する法律」に書かれた4種類の虐待は何か、知っているものを全て回答するよう求めた。身体的虐待、性的虐待、ネグレクト、心理(精神)的虐待を正答とし、正答数を算出した。

(4) 児童虐待の要因数

子どもへの虐待が起こる原因と考えられるものをすべて回答するよう求めた。

(5) 児童虐待に関するクイズの正答数

「虐待の相談件数は、年々増加していたが、児童虐待防止法成立以降、減少傾向にある。」等、子どもへの虐待に関する10項目の問い(表3参照)に対して、文章が正しいかどうかを○×で回答するよう求め正答数の合計点を算出した。

4. 結果

4. 1 オレンジリボン運動の認知者数の変化

オレンジリボン運動を正しく認知している者の割合がオレンジリボン運動参加前後で増加したかどうかを検討するため、McNemar 検定を行った。その結果、オレンジリボン運動の認知者数は、図2に示したように、参加前(23名)と比べ、参加後(80名)で増加した($p<.001$)。

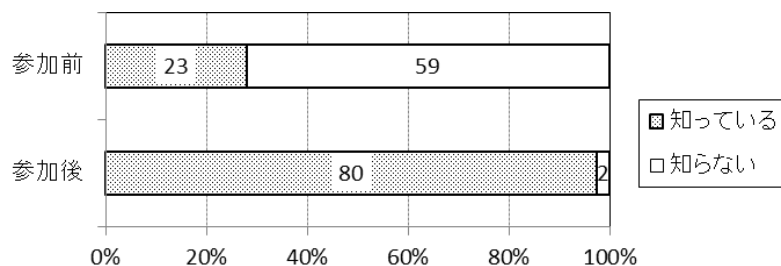


図2 オレンジリボン運動の認知者数の変化

4. 2 児童相談所共通ダイヤルの認知者数の変化

児童相談所共通ダイヤルを正しく認知している者の割合がオレンジリボン運動参加前後で増加したかどうかを検討するため、McNemar 検定を行った。その結果、図3に示したように児童相談所共通ダイヤルの認知者数は、参加前(6名)と比べ、参加後(69名)の方が増加した($p < .001$)。

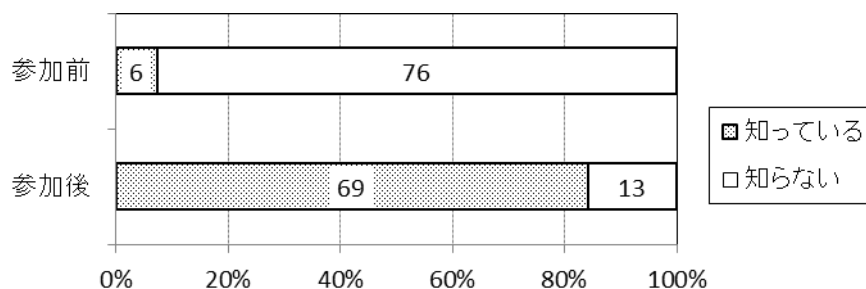


図3 児童相談所共通ダイヤル(189)の認知者数の変化

4. 3 児童虐待の種類

4種類の児童虐待を全て正しく回答した者は、参加前42名であり、参加後77名であった。4種類の児童虐待を正しく回答した数の平均値と標準偏差を表1に示す。運動参加前後で、正答数が増えるかどうかを検討するために対応のあるt検定を行った。その結果、参加前($M=2.73$)と比べ、参加後($M=3.83$)の方が、正しく回答できる児童虐待の種類数が増加した($t(81)=-5.64, p < .001$)。

表1 虐待種類正答数の平均値と標準偏差

参加前		参加後	
2.73	(1.59)	3.83	(.77)

4. 4 児童虐待の要因数

子どもへの虐待が起こる原因と考えられるものとして挙げられた要因について重複を除いて合計した数の平均値と標準偏差を表2に示す。運動参加前後で、虐待の原因として数多くの要因を想定できるようになったかどうかを検討するために対応のある t 検定を行った。その結果、参加前($M=1.68$)と比べ、参加後($M=2.57$)の方が、虐待の要因として思い起こせる数が増加した($t(81)=-4.29, p<.001$)。

表2 虐待要因数の平均値と標準偏差

参加前		参加後	
1.68	(1.11)	2.57	(1.63)

4. 5 児童虐待に関するクイズの正答者数の変化

子どもへの虐待に関する10項目の問いと、各時点におけるそれに対する正答者数の割合を表3に示した。また、各問の正答数の平均値と標準偏差を表4に示す。運動前後で、クイズの正答数が増加したかどうかを検討するため、対応のある t 検定を行った。その結果、参加前($M=8.27$)と比べ、参加後($M=8.74$)の方が、クイズの正答数が増加し($t(73)=-2.33, p<.05$)、子ども虐待に対する理解が深まったと考えられる。

表3 虐待クイズの正答者数の割合

問い	正答	正答者数(%)	
		T1	T2
1 虐待の相談件数は、年々増加していたが、児童虐待防止法成立以降、減少傾向にある。	×	70.27	83.95
2 児童相談所全国共通ダイヤルは24時間受付している。	○	93.24	96.30
3 児童虐待により死亡した子どもの年齢で、最も多いのは、イヤイヤ期を迎えた2歳である。	×	36.49	25.93
4 児童虐待により死亡した子どもに虐待を加えた加害者で最も多いのは実母である。	○	83.78	97.53
5 近所の一般市民が子どもへの虐待に気づいた場合通告義務はないので通告しなくてもよい。	×	91.89	93.83
6 虐待を通告した後で、それが虐待でなかったとわかった場合、通告者は罰せられる。	×	91.89	93.83
7 虐待を受けて実親と暮らせない子どもはほぼ全員、里親と一緒に暮らしている。	×	89.19	90.12
8 子どもに直接暴力を振るわなくても、 子どもの目の前で暴力をふるっている場面を見せることも虐待の一種である。	○	91.89	97.53
9 児童虐待防止法では、保護者以外の同居人による虐待は児童虐待には含まれない。	×	93.24	97.53
10 子どもの時に虐待を受けていない人は、子どもに虐待をすることは絶対がない。	×	98.65	96.30

表4 虐待要因数の平均値と標準偏差

参加前		参加後	
8.27	(1.60)	8.74	(.99)

5. 考察

様々な測度においてオレンジ運動参加前と比べ、参加後に子どもの虐待に対する理解度が高まることが示された。先行研究では他者を説得する経験が説得者自身の態度・行動変容を生み出すことが示されている(Horsley, 1977)。虐待について調べ、まとめるという経験だけでなく、他者を説得するための発表資料を作成するという経験がさらなる児童虐待に対する理解をもたらした可能性が示唆される。

一方で本取組は2年生の後期に実施されたため、運動参加前の時点で、様々な教科において、子どもの虐待に関する学びを重ねてきている。しかしながら、運動参加前に、オレンジリボン運動を正しく理解している者の数は82名中6名であり、4種類の虐待を正答した者は42名であった。この様子から、子どもへの虐待に対する学びを定着させられていない者が多いと推察される。様々な科目で繰り返し学んでいるにもかかわらず、子どもへの虐待に関する知識や理解が深まっていないことから、各科目で学んだ内容を、能動的に自分なりに結び付けて、学びを深めていくという力に欠けている可能性が示唆される。今後は各科目が連携し、科目間での学習内容を構造化した上で、2年間をかけて学びを深めていくカリキュラムを構成することが求められるだろう。さらに、受動的な学習だけでなく、学習者自身が能動的に考え、学びを再構築する取り組みを適宜取り入れていく必要性も示唆される。

引用文献

厚生労働省(2015). 児童虐待の状況等 <http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/0000123890.pdf> (検索日: 2016年3月20日)

Horsley, A.D. (1977). The effects of a social learning experiment on attitudes and behavior toward environment conservation. *Environment and Behavior*, 9, 349-384.

辻尾朋子・加藤曜子(2013). 大学生によるオレンジリボン啓発運動の有効性 流通科学大学論集一人間・社会・自然編一, 26(1), 9-16.

松尾由美・桑原千明(2015). こども学科学生によるオレンジリボン運動の取り組み 関東短期大学紀要, 57, 57-60.

外国籍のこどもとその保護者への情報保障にむけた

保育者養成校言語関連科目での

「やさしい日本語」の導入の試み

—「保育内容・言葉」「国語」「日本語表現」を中心として—

中野真樹

1. はじめに

近年、保育者養成校においても外国籍、非日本語使用者等マイノリティ児童やその保護者への対応に関する指導への要請は高まっており、こどもの言葉の学びを支援する領域科目「保育内容・言葉」のテキスト類でも、多文化共生や非日本語使用者のこどもやその保護者とのかかわりについて触れているものが多くある。本学においては、近隣に外国籍の人々が集住する地域を持つという特性から、就職先に外国籍幼児が在籍する場合も多く、特にその必要性が高いといえるだろう。そこで、「保育内容・言葉」においてマイノリティの児童の支援の一環として、「やさしい日本語」の導入を試みている。しかしながら、「保育内容・言葉」で教えるべき内容は多岐にわたり、多くの時間をあてることが難しい。そこで、他のことばに関連する科目（「国語」「日本語表現」）と連携する形で、それぞれ科目の特性を考慮しつつ、「やさしい日本語」について学んでいる。ここで、その概要と今後の課題を報告したい。

2. 外国籍児童とその保護者を取りまく環境

2. 1 外国籍児童への保育者の支援に関する先行研究

保育現場の国際化に関する研究としては、角田（2006）がある。ここでは、異文化のなかで暮らすこどもとその保護者に対して、保育者がどのような対応を行えるのか、またそのためにはどのような課題が存在するのかについて詳細に述べられている。このなかで、角田（2006:83-84）では、保育者養成校においてもこの国際化に向けてカリキュラムの改正の必要性や、保育の専門的知識・技能の習得のみならず、社会の多様性をみすえた幅広い教養的学習が必要であることが指摘されている。

小学校・中学校での外国籍受け入れの取り組み状況とくらべて、現在、幼稚園・

保育所の外国籍のこどもの受け入れ体勢はまだ制度の整備が遅れており、個々の園の努力に負うところが大きくなっている現状がある。そのような状況を指摘したうえで、外国籍の人々が集住する東海地区における保育士達の声を紹介したものとして、内田（2013）がある。保育者は保育の専門家として外国籍のこどもに対応できるすべを身に着ける必要があることが述べられ、それには保育者養成校においても異文化理解・多文化共生教育が行われていくことの必要性が指摘されている。

外国籍のこどものことばの発達への保育者・保育期間の支援に関する研究としては、こどもの母語の継承に着目した佐々木(2013)において、外国籍保育者の存在が重要となることが示唆されている。また母語の継承指導およびこどもへの日本語教育指導を行うことの必要性とその実態について示した鈴木ら(2013)がある。就学後の日本での生活にむけての日本語教育、そしてこども本人のアイデンティティの保持や家族間でのコミュニケーションのための母語継承指導、どちらも重要でありつつ、現状ではどちらにも多くの課題を抱えていることが指摘されている。このほかに、外国籍のこどもの保護者に対する支援として、連絡帳などの保育者と保護者との書き言葉によるやり取り場面において、読み書き能力を支援していくことの重要性とその困難さについて富谷ら(2012)、内海ら(2013)がある。

これらの先行研究を概観して、現在日本の幼稚園・保育園において外国籍のこどもとその保護者の支援が課題となっていることがわかる。その支援方法や課題は多岐にわたるが、ことばに関する支援についても、重要な要素の一つであると言えるだろう。また、ことばの支援に限っても、日本語教育、母語継承、保護者への読み書き能力支援等、さまざまな方法が報告されている。そのような状況のなかで、保育者養成校においても、さまざまな文化的背景を持つこどもに接し、支援を行うことができる保育者の育成が強く求められている。

これをうけて、5領域のひとつ、「言葉」の授業において、さまざまなテキスト類で「多文化共生」について触れられている。本学においては、群馬県の南部、館林市に位置し、近隣に群馬県邑楽郡大泉町等の外国籍住人の集住地区があるという特性から、卒業後に外国籍のこどもがいる幼稚園・保育園に就職する学生も多く、外国籍のこどもの言葉の支援や多様な文化的アイデンティティへの配慮ができる保育者の養成が必要となっている。そこで科目「保育内容・言葉」や、その他ことばに関連する科目において、外国籍のこどもとその保護者への支援方法の一つとして「やさしい日本語」の紹介を行い、その実践活動に取り組んでいる。ここで、その方法と課題について述べていきたい。

2. 2 「やさしい日本語」とは

「やさしい日本語」は、1995年の阪神淡路大震災の際に、日本語を母語としない日本に暮らす人々を対象とした情報や言語の支援の一環として提唱されたものである。その後の2011年の東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故の際に議論が活性化した。詳細は弘前大学人文学部社会言語学研究室(2013)にくわしい。また弘前大学人文学部社会言語学研究室が運営する「減災のためのやさしい日本語」のサイトに、その概要や「災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」が公開されている¹。これによると「やさしい日本語」とは、日常でよく使う言葉を使った日本語を母語としない人々にもわかりやすく伝えるための日本語であるという。「やさしい日本語」はおもに災害時に必要な情報をとどける場合に使われる。しかし、そのような非常時以外でも、日々の生活のなかで日本語を母語としない人々への情報の保障のとりくみの一環として「やさしい日本語」を活用しようとする動きがある。たとえば地方自治体の外国籍住民のための情報提供媒体等でこの「やさしい日本語」が使用されている実績があり²、また幼稚園における外国籍保護者への連絡に「やさしい日本語」を使用するという試みについては、西尾・野山(2015)で報告されている。また、このように情報の取得が限定されている人々に必要な情報をとどけるための言語の平易化については日本語のみならず他の言語でも行われており、たとえば英語については「やさしい英語(Plain English)」について説明した角(2015)

がある。このような傾向は世界的なものであり、「やさしい日本語」も災害時に限定されるものではなくなっていくだろうことは予想される。保育者がこの「やさしい日本語」を学び、保育の場で実践していくことには一定の意義があるだろうことが考えられる。

次に、「やさしい日本語」のあらましを紹介する。やさしい日本語は、弘前大学人文学部社会言語学研究室(2013:2)によると『やさしい日本語』は、日本語学習者が初期の段階で学ぶ約2000の語彙と、単文を主とした単純な構造からできている。これは、非日本語母語話者の日本語運営能力をはかる旧「日本語能力試験」の3級程度³に相当するという。また、わかりやすく説明するために「小学校3年生

¹ <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ1a.htm>

² 本学がある館林市の近隣市である群馬県太田市においても、「くらしのガイド」というページを開設し、生活に必要な情報をやさしい日本語で提供している。
<http://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0020-007kikaku-kouryu/kokusaikouryu/2016-guidefordaily-life-H28.html>

³ 「日本語能力試験」は改訂が行われており、旧「日本語能力試験」3級は現在の「日本語能力試験」のグレードではN4にほぼ相当する。

の教科書程度の難しさ」と表現されることもある。これらをふまえた例文は、以下のようになる。弘前大学人文学部社会言語学研究室（2013:2）で示された例を一部掲出する。

【普通の日本語】

けさ7時21分頃、東北地方を中心に広い範囲で強い地震がありました。
大きな地震のあとには必ず余震があります。
引き続き厳重に注意してください。

【「やさしい日本語」】

今日 朝 7時21分、東北地方で 大きい 地震が ありました。
大きい 地震の あとには 余震 あとから くる 地震が あります。
気をつけて ください

弘前大学人文学部社会言語学研究室（2013:2）

また、表記の面では、ローマ字文で書かれたり、かな文では漢字の使用が制限されるか、もしくはすべての漢字にふりがな等のよみ情報が付与されるなどといった工夫が行われることもあり、その関係から文章は文節わかちがきを用いて書かれるという特徴がある。

3. ことばに関連する科目での「やさしい日本語」の導入

「やさしい日本語」での作文は、使用できる語彙や漢字に制限があり、また複雑な構文にならないように、できるだけ一読してわかりやすくするという工夫が必要である。そのための知識を身に着けたり、実際に「やさしい日本語」で日本語文を書くための訓練が必要となる。保育養成校で「やさしい日本語」を導入するとすれば、その学習は「保育内容・言葉」科目で行われるのが妥当であろう。しかしながら、「保育内容・言葉」では教育要領・保育指針についての解説、こどもの言語獲得・言語発達について、絵本等の児童文化財についてと、多岐にわたる授業内容があり、「やさしい日本語」のみに多くの時間数をあてることができない現状がある。そこで、他のことばに関連する科目として、「国語」、「日本語表現」それぞれの教育目標に適した授業内容の組み立てを行い、複数の科目で継続して「やさしい日本語」について学ぶ機会を設けている。以下で、それぞれの科目の内容分配について示す。

3. 1 「国語」とやさしい日本語

教科科目である「国語」は選択授業となっており、1年次の前期に開講される。ここでは就学前教育から小学校教育への接続を考慮しつつ、教科としての国語に関する学習内容の再確認を行っている。「やさしい日本語」にまつわる授業内容としては、ローマ字と文節わかちがきとの2項目があげられる。ローマ字教育は小学校での学習内容となるが、ヘボン式・日本式・訓令式等のつづり方の再確認をしたのち、それぞれの綴字法の利点と欠点について学んだ後、ローマ字日本語文のよみかきの練習を行う。また、文章を書くときに語や文節の単位でスペースをくぎって書くわかちがきについては小学校学習内容ではないが、日本語ローマ字文をはじめとして、日本語点字、絵本、小学校低学年用教科書類にあらわれるものであり、とくに保育者養成校においてはわかちがきについての知識や運用法を学ぶことの意義があるものとする。また、わかちがきは現在は基本的には単語ごと、もしくは文節ごとにくぎって書くという方法が主流であり、そのくぎりの根拠としては学校文法における品詞認定が用いられている。そのため、中学国文法の知識を再定着することがわかちがきの習得には不可欠となっている。このように教科科目としての特性を活かし、既習事項の再確認を行いながらわかちがき法とローマ字綴字法について学び、「やさしい日本語」の導入へとつなげていく。

3. 2 「日本語表現」とやさしい日本語

「日本語表現」は1年次後期開講の「日本語表現Ⅰ」と2年次前期開講の「日本語表現Ⅱ」にわかれている。「やさしい日本語」についてとりあげるのは、「日本語表現Ⅱ」である。基礎的な学生生活に必要なアカデミック・ライティング等の文章表現力の強化を教育目標としている「日本語表現Ⅰ」に対して、「日本語表現Ⅱ」では日誌の書き方や観察記録、保護者との連絡帳のやりとりの場におけるより実践的な日本語表現について学ぶ。このとき、外国籍の保護者とのやりとりを想定した「やさしい日本語」による連絡や手紙の作文の練習も行う。具体的には、弘前大学人文学部社会言語学研究室が運営する「減災のためのやさしい日本語」等の閲覧が容易な資料を紹介し、「やさしい日本語」の理念と概要について説明する。また、「やさしい日本語」作成の際には使える語彙や漢字に制限があること、漢字にはふりがなを付与し、わかちがきを行うなどといったルールを示す。その後、やや難解な表現を取り混ぜた「避難訓練のお知らせ」「保護者との連絡帳でのやりとり」「月例の保護者向けの連絡だより」などを課題文として、それを「やさしい日本語」に書き直すという授業を行っている。

この時、学生は日本語教育を専門としているわけではなく、また「やさしい日本

語」にあてられる授業時間数も限られているという制限があり、使える語彙や漢字の目安についての判断が難しいという問題が生じる。そこで、オンラインの「やさしい日本語」作成支援ツールとして広く使われている「リーディング チュウ太⁴⁾」の紹介を行い、実際に使用して自分が作文した「やさしい日本語」にどれだけの妥当性があるかという評価を行う。日本語解説学習支援システム「リーディング チュウ太」は、日本語能力試験のどのグレードの学習者にとって読みやすい文章で書かれているかをチェックすることができる。弘前大学人文学部社会言語学研究室(2013)においてもその使用が推奨されており、広く知られているツールである。類似のツールとしては、「やさしい日本語」記述のための補助ツール「やんしす⁵⁾」(YAsashii Nihongo SIen System)があるが、「やんしす」はソフトウェアであり、使用にはダウンロードとパソコンへのインストールが必要であるため、使用環境が限られてくる。オンラインツールであり、スマートフォンからも使用できる「リーディング チュウ太」の方が、より本学の学生にとっては利便性のあるものと判断した。

以下で、授業内での使い方を図を用いて説明する。

図1 「リーディング チュウ太」入力画面

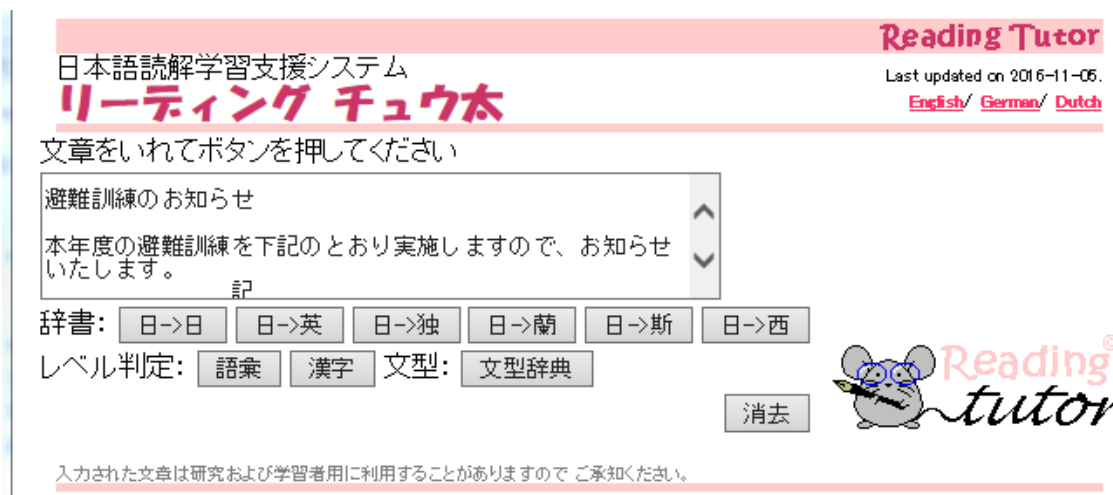


図1のとおり、「リーディング チュウ太」は入力した文章について、日本語能力試験のグレードを基準に、語彙と漢字のそれぞれについて、難易度を判定することができる。

⁴⁾ <http://language.tiu.ac.jp/>


⁵⁾ <http://www.spcom.ecei.tohoku.ac.jp/~aito/YANSIS/>

図2 解析結果（語彙）

リーディング チュウ太

Reading Tutor

日本語 / English / Deutsch



入力された文章

1. 日時
平成27年9月1日(木曜日)
午前11時～午後2時

2. 訓練目的
大規模地震発生を想定した引き取りの訓練

3. 訓練内容
(1)午前11時に震度6強の地震発生と津波警報発令。戸締りをして、引き取りのために家を出発してください。
(2)混雑が予想されますので、自動車ではなく、徒歩・自転車・公共交通機関を利用して迎えに来てください。(実際の地震発生時には交通機関の遮断が予想されます。)

級外 9 (9)

平成	1
想定	1
震度	1
警報	1
発令	1
遮断	1
敏速	1
張り出す	1
ルート	1

N1 21 (14)

単語レベル: ★★★★★ 少し難しい

総数	語彙総数	級外	N1	N2N3	N4	N5	その他
196	149	9	21	19	22	78	47
131.5%	100.0%	6.0%	14.1%	12.8%	14.8%	52.3%	31.5%
(104)	(86)	(9)	(14)	(16)	(15)	(32)	(18)
120.9%	100.0%	10.5%	16.3%	18.6%	17.4%	37.2%	20.9%

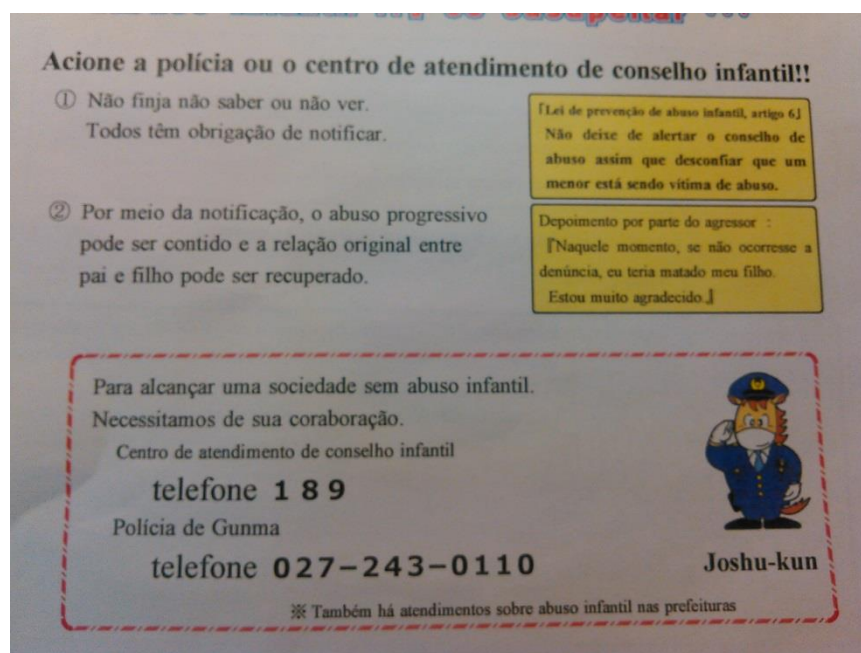
図2は、語彙に関する解析結果である。難しい単語（級外、N1）は赤字で示されており、書き換えが必要となる。漢字についても、同様に難易度をはかれるようになっていく。また、入力したテキストについて、英語、ドイツ語、オランダ語、スペイン語、ポルトガル語等多言語の辞書が用意されており、「やさしい日本語」以外にも他の言語による情報保障も考慮されている。このように、ツールを使用することで日本語教育の専門家ではなくとも、直感的に日本語文の難易度をはかることができたり、日本語以外の言語を示すことができるということを学生に伝え、赤字で示された難解な語や漢字については赤字がなくなるまで書き換えたりふりがなを付与したりする練習を行っている。

3. 3 「保育内容・言葉」とやさしい日本語

「保育内容・言葉」は2年次後期に開講される。領域科目として、保育指針・幼稚園教育要領における領域「言葉」についての理念、他の領域とのかかわりについて学ぶ。その後、こどもの言語獲得・言語発達について学習する。このとき、保護者が日本語話者であるこどもばかりではなく、家庭に多言語状況をもつこどもの言葉の発達に関しても考慮した授業を行っている。それから、実際の保育の現場での

こどもの言葉の学びの支援について考察していく。その際、小学校教育との連携や、外国籍のこどもとその保護者の支援方法についても紹介する。最後に、絵本等の児童文化財の活用方法について学んでいく。このように、「保育内容・言葉」の学びの項目は非常に多岐にわたっている。外国籍のこどもの支援については、2年次前期で学習した「やさしい日本語」について再確認を行ったのち、それがあくまでも手段の一つであり、その他にも日本語教育、母語継承のとりくみ、外国籍のこども、日本国籍のこどもの相互の異文化理解の促進といった多言語・多文化・多角的な支援が必要であることを伝える。それから、近隣の外国籍住人の多くいる地域の日本語ボランティア。市町村の具体的なとりくみや、その課題について紹介具体的な資料等を交えて紹介し(図3)、外国籍のこどもへの支援はひとつの保育園、幼稚園で完結するのではなく社会全体でとりくむべき課題であること、保育者は地域社会と連携して保育をおこなう必要があることを伝えている。

図3 群馬県大泉町で配布されているポルトガル語版「児童相談所全国共通ダイヤル」紹介のチラシ



4. 保育者養成校における外国籍のこどもの支援の学びとその課題

3. で確認したように、本学では、保育者養成校として外国籍のこどものことばの学びの支援の一環として、ことばにかかわる3つの科目で、科目の特性に応じた連携を行う中で、「やさしい日本語」の導入を試みている。1年次科目である「国語」

では、ローマ字・わかちがきといった基礎的な日本語の知識の再定着を行い、日本語文章表現技術を学ぶ「日本語表現」で、2年次前期に外国籍のこどもの保護者に向けた連絡を「やさしい日本語」で書くという練習を行う。そして2年次後期の「保育内容・言葉」で、「やさしい日本語」をきっかけに異文化交流・多文化共生外国籍のこどもを取り巻く社会の課題等を学び、保育者としてのこどものことばの発達の支援について考察する機会を設けている。各科目で取り上げる時間は少ないが、開講時期の異なる複数の教科で継続的に「やさしい日本語」についてとりあげ、外国籍のこどもたちへのことばの支援についての学生の関心を高めていくことを目標としている。

ここで、課題について整理しておく。一つ目は、外国籍のこどもとその保護者の支援としての「やさしい日本語」の限界である。「やさしい日本語」はもともと非常時の緊急措置としての情報保障からはじまっており、今現在もその使用は限定的とみなされる場合がある。学生からも、「保護者への連絡なのでわかりやすさを考えすぎて子供っぽい文章になってしまってよいのか悩む」などといったとまどいの声があがる場合もある。日本語にはさまざまなバリエーションがあること、そこに明確な優劣があるわけではないこと、という言語に関する基本的な知識の習得も進められる方が望ましいが、保育者養成校の限られた時間数の中で限界もあり、そこまでは踏み込めないという現状がある。また、「やさしい日本語」はもともと成人を対象としたものであり、一つの目安として「小学校3年生が読んでわかる程度の文章」と説明される場合がある。こどもの保護者には有用な場合もあるだろうが、このほかに外国籍の幼児の発達にあわせた「やさしい日本語」が必要となる場合もあるだろう。たとえば、大伴ら（2013）、上野ら（2008）、小椋・綿巻（2004）といった言語コミュニケーションや語彙の発達スケール等をひとつの基準として利用した「こどものためのやさしい日本語」の開発も今後考えていく必要もあるかもしれない。また、外国籍のこどもとその保護者への支援は、「やさしい日本語」の提供のみでは不十分である。「やさしい日本語」は母語での情報提供、日本語教育の支援、継承言語の保障、といった言語的支援のなかの一つでしか過ぎないこと、また「やさしい日本語」でも理解が困難な人、逆に「やさしい日本語」では平易すぎると感じる人といったさまざまな人々の存在を知っておくべきである。同様に、漢字表記に関しても非漢字圏の人々には漢字の多用は難しい文章になると思われているが、漢字使用言語話者に対してはかえって漢字が文章の意味を助ける役割をもつことも想定される。このような言語的・文化的背景についても考慮する必要がある。学生に、「やさしい日本語」さえ用意しておけば事足りるという誤解を招かないように慎重に紹介しなければならない。

第2に、外国籍のこどもとその保護者の支援はことばのみにとどまらない。食文化・身体文化・宗教文化といったさまざまな文化的背景を異にする人々と共生していくためには、保育者養成校においてもことばの関連の科目だけでなく、他の領域やさまざまな専門分野の科目とその教員が連携し、異文化理解・多文化共生のためのカリキュラムマネジメントを行っていく必要がある。

最後に、本学における「やさしい日本語」の導入が、外国籍のこどものことばの支援として妥当かどうかという評価を行うことが今後の課題となってくる。先行研究となる西尾・野山(2015)では、非日本語母語話者である保護者に対して聞き取り調査を行っており、保育者養成校の学生が考える「難しい日本語」と保護者が実際に難しいと感じた語に一部のずれがあることが指摘されている。本学においても、授業内で学生が作成した「やさしい日本語」に実効性があるのか、保育者に評価してもらう必要があるだろう。そのためには近隣の幼稚園・保育所と連携して協力を仰いでいくことが望まれる。また、このような外国籍・非日本語使用者の人々への支援にかんしては、幼稚園、保育所ができることは限られてくる。地域の行政やボランティアともつながりを持ち、地域社会全体として取り組むために、その橋渡しの役割を、保育者養成校が担うこともできるだろう。そのなかで、「やさしい日本語」がどのように効力を持ち、どのように活用することができるか、検討していかなければならない。

5. おわりに

近隣に外国籍住人の集住地区を持つ本学において、外国籍のこどもとその保護者を支援できる保育士の養成が求められている。そこで、ことばに関連する科目「国語」「日本語表現」「保育内容・言葉」において、それぞれの科目の特性を考慮しつつ、「やさしい日本語」の導入を試みている。本報告では、その概要についてまとめ、今後の課題を整理した。

「やさしい日本語」は、日本語があまり得意でない人たちの情報保障のために考えられた日本語のバリエーションである。使える語彙・構文が限られており、表記の面でも使用できる漢字が限られており、また文節わかちがきを行うという特徴がある。このような基準をもつ「やさしい日本語」を作成するためには、ある程度の日本語の知識が必要となる。そこで、オンラインで公開されている「やさしい日本語」作成支援ツールやガイドブックを利用しつつ、複数の科目をとおして継続的に「やさしい日本語」についての学びを行っている。

今後は、その限界にも考慮しつつ、「やさしい日本語」での情報提供ができ、また

外国籍のこどもとその保護者への情報保障にむけた保育者養成校言語関連科目での「やさしい日本語」の導入の試み（中野）

言語にかぎらずさまざまな文化的な配慮について包括的に支援ができる保育者養成のために、他の教科の教員ともカリキュラムマネジメントを通じた連携を行ってきたい。また、実際に地域の行政・ボランティア・幼稚園・保育所と連携しつつ、教育効果の評価を行っていきたいと考えている。

引用文献

- 上野一彦・名越斉子・小西悟（2008）『PVT-R 絵画語い発達検査』日本文化科学社
- 内田千春(2013)「新人保育者の語りに見る外国につながるのある子どものいる保育」『共栄大学研究論集』,11,pp.273-286
- 内海由美子・澤恩嬉(2013)「外国人の母親に対する読み書き能力支援としてのエンパワーメント：幼稚園・保育園と連携した主体的子育てを目指して」『日本語教育』,155,pp.51-65
- 大伴潔・林安紀子、橋本創一、池田一成、菅野敦『言語・コミュニケーション発達スケール LC スケール 増補版』,学苑社
- 小椋たみ子・綿巻徹(2004)『日本語マッカーサー乳幼児言語発達質問紙 語と身振り』,京都国際社会福祉センター
- 角野雅彦(2006)「国際化する保育の現状と課題に関する一考察：外国人の子どもの保育と保護者への支援をめぐって」『四国学院 論集』,120,pp.63-86
- 鈴木祥子・平野知見・竹下秀子（2013）「就学前保育における日本語指導と母語指導：滋賀県内保育所を対象とした多文化保育の実態調査から」『人間文化』,33,pp.18-25
- 角知行(2015)「Plain English(やさしい英語)再考：文書平易化運動の観点から」『ことばと文字』,4,pp.130-138
- 西尾広美・野山広(2015)「幼稚園における「やさしい日本語」学部授業導入に向けて：学生が指摘した幼稚園の配布文書の難しさは、NNS 保護者の指摘と一致したか」『多文化共生社会における日本語教育研究:言語習得・コミュニケーション・社会参加:大学共同利用機関人間文化研究機構国立国語研究所日本語教育研究・情報センターシンポジウム』,pp.49-51
- 富谷玲子・内海由美子・仁科浩美(2012)「子育て場面で外国人保護者が直面する書き言葉の課題：保育園・幼稚園児の保護者を対象とした調査から」『神奈川大学言語研究』,34,pp.53-71
- 弘前大学人文学部社会言語学研究室(2013)『〈増補版〉「やさしい日本語」作成のためのガイドライン』

保育者養成校におけるピアノ指導の在り方

—読譜に関する能力育成を図るために—

林 智 草

1. はじめに

保育現場に即応出来るピアノスキルを短期間で確実に身につけさせること。これは、保育者養成校のピアノ実技指導において最大の目的である。同時に、どのように指導を行えば効率的、効果的にその目的を達成できるか、指導法の在り方を探ることは指導者の使命である。

では、学生が身につけたいと考える音楽スキルとは一体どのようなことであろうか。これについては、先の全国保育士養成協議会第54回研究大会において、調査結果の報告を行った¹。その結果、学生が身につけたいと考える音楽スキルの多くは、授業内で指導が行えていることが明らかとなった。その一方で、初見演奏が出来るようになりたいと考えている学生が少なくないことも判明した。しかし、授業では演奏（弾き歌い）技術の向上に重きを置いており、初見演奏の根底となるソルフェージュ能力の育成は行えていない。この報告では、現行の授業カリキュラムの問題点も浮き彫りとなった。だが、初見演奏は幼少期からピアノ学習を始めた者であっても得手、不得手と分かれるスキルである。本学は2年制の養成校であり、入学者の4割前後はピアノ初心者という状況である。その限られた時間で初見演奏に必要な技能を身につけることは極めて難しい。

そこで、初見演奏の前提となる「読譜」に着目したい。初見演奏には音高、リズム、拍子、調号、臨時記号、楽曲構造等の情報を、楽譜から素早く正確に読み取る力が必要となる。その中で、ピアノ学習初心者が最も苦手とすることは音符（楽譜）を読む、つまり読譜である。本稿では、まず学生の学習過程における譜読みに関する問題点を探り、その結果を踏まえ、読譜能力の育成を図るための効果的な指導法について検討を行っていく。

2. 読譜能力育成の意義

「初見演奏の能力を身につけたいか」と問われれば、ピアノ学習者の多くは「身につけたい」と答えるだろう。本学の学生にも同様の質問を投げかけたところ、約

¹ 林 智草 2015 「保育者養成校におけるピアノ指導の在り方」 『全国保育士養成協議会第54回研究大会研究発表論文集』 p. 59

9割が「身につけたい」と答えた。

では、初見演奏が可能となることによって、どのような利点があるか。一つは1曲を仕上げる時間が大幅に短縮出来ることが挙げられる。特に、保育現場では季節の歌、流行の歌など日々様々な曲を歌うため、保育者は弾き歌いのレパートリーを数多くもっていることが求められる。初見演奏が可能となればレパートリーの幅も広くなり、子どもたちのその時々興味に応じて、多種多様な歌を提供することが出来るだろう。もう一つの利点は、ピアノを弾くという基本的な行為の先にある「表現」に目を配ることが可能となるという点である。音楽は幼児教育における五領域のうち「表現」に属するが、子どもたちの豊かな表現を育むためには、まず保育者がそれに目を向け、音楽を通じた表現活動の可能性を十分に理解している必要がある。そして、楽譜には音高、リズムのみならず、強弱やテンポ、また歌詞に描かれた情景といった様々な情報が記されている。これらの情報は豊かな表現には欠かせない要素であり、それらを瞬時に、的確に読み解くことが出来れば、より良い表現を追求することが可能となるだろう。

既に述べた通り、初見演奏の技術は初心者が短期間で容易に身につけられるものではない。特に保育者養成校におけるピアノレッスンは修業年数が限られているため、ピアノ教室のような長期的な指導は行えない。しかし、初見演奏の前提となる「読譜能力」は、指導側のアプローチによっては短期間であっても育成することが出来るのではないかと考える。そして、その能力が身につくことにより、上述した初見演奏の2つの利点にも結びつく、的確かつ効率的な読譜が可能になるものと考えられる。

3. 学習過程における読譜の問題点

入学者にピアノ初心者が多いとは言え、学生はみな義務教育課程の中で音楽の授業を受けている。そのため、短大入学時点で既に楽譜を読むことに対する苦手意識をもっていることが多く、指導者はこの意識を払拭することに苦心する。本学では、入学前および入学後のガイダンスにおいて、全入学生に対して「楽譜に音名をふらないこと」と指導している。音名をふることは、読譜に対する苦手意識を取り去る最も簡単な手段である。しかし、楽譜をスラスラと読めるようになるためには、音名をふらずに五線譜上で音の高低を認識することに慣れる必要がある。特に、音名を書くことによる最大の弊害は、音の高低に関する認識が欠如し、弾いている音は合っているが、高さが違うという事態が生じることである。

入学時からこのような指導により、半数以上の学生は入学から1年が経過した頃には音名を書き込むことなく、五線譜を理解出来るようになっている。だがその一

方で、2年間の指導を受けても読譜を苦手とする学生がいる。

この差はなぜ生じるのだろうか。その疑問を明らかにするため、聞き取り調査を行った。調査は平成27年6月、関東短期大学こども学科2年次のうち幼稚園教育実習を終えた学生を対象に実施し、101名から回答を得た。問1「新しい曲を練習する際、まずどのような手段を取るか」に対する回答結果を表1に示す。なお、練習の手段については予め想定される選択肢を設け、選択は1つに限った。

表1 「新曲を練習する際の手段」について回答結果

練習手段	回答数
① 自力で楽譜を読み、何とかピアノで弾いてみる	55
② 友人や先生に曲を弾いてもらい、耳で曲を覚える	19
③ You Tube などインターネットで曲を探して聞き、耳で曲を覚える	16
④ 楽譜を読み、ピアノで弾く前に頭の中で曲を鳴らしてみる	6
⑤ 楽譜を読み、ピアノを弾く前にメロディーを歌ってみる	5

上記の結果から新しい曲を練習する際、最初に取り手段には2つのタイプが存在することが明らかとなった。一つは、選択肢①、④、⑤のように「自力で楽譜を読んでいる」グループであり、回答の65%を占めた。一方、②、③に共通していることは「耳で曲を覚える」という点にある。これを「自力で楽譜を読んでいるいない」グループととらえた場合、全体の35%を占めた。

さらに、問2として「曲を耳から覚えること（いわゆる耳コピー）は得意であるか」と質問したところ、34名が「得意である」、67名が「不得意である」と答えた。この結果を踏まえると、先の「自力で楽譜を読んでいるいない」グループと「耳コピーが得意である」と回答した人数はほぼ同数であることが見て取れる。つまり、本来であれば、楽器を演奏するためにはまず楽譜を読むことから始めなければならないが、耳から覚えることを得意とするからこそ、読譜を疎かにしやすい傾向にあると言える。そして、耳コピーを苦手とする学生は、楽曲を覚える手段が楽譜を読むことに限られるため、たとえ読譜が苦手であったとしてもその手段に頼らざるを得ないとも言えるだろう。

読譜能力を身につけるためには、既に述べたように五線譜に慣れていくことが必要となる。しかし、曲を耳で覚えることにより楽譜を読むという行為を放棄してしまい、結果として、その能力を伸ばす機会を逃している。問1に対する回答のうち、特に注目すべきは③である。今日、You Tubeのようなインターネットでの動画や楽

曲配信が広く普及しており、子どもの歌もこれらを用いて簡単に聴取することが可能である。楽曲を知る手段の一つとして使用されることは、今後ますます増えていく傾向にあると予想される。これは、読譜能力の育成を妨げるものであり、指導の際には注意を払う必要があるだろう。

4. 読譜能力向上のための指導

第2章での調査から、学生が新曲を練習する際には、楽譜を読んで練習するグループと耳から曲を覚えるグループの2つが存在することが判明した。そして、学生の読譜に対する取り組み方によって、短大2年間の学習の中で読譜能力を育成する機会に大きな差が生じることが明らかとなった。つまり、読譜能力向上には教員による意識的な指導が必須であると言える。しかし、本学のピアノ実技科目「器楽Ⅰ・Ⅱ」では童謡の弾き歌いに重点を置いており、読譜や聴音といったソルフェージュに関する指導は行えていない。これについては、既述の全国保育士養成協議会研究大会において、指導上の問題点として報告を行った。

そこで読譜能力の育成を図り、より良い指導法を探るため、平成27年10～12月、1年次科目「器楽Ⅰ」の履修者から21名を対象に、複数回に渡って読譜に関する課題に取り組みさせた。課題は『書いて覚える徹底!! 譜読 2』を用いた²⁾。これは、1ページにつき48音が記されており、その音符の音名を解答していくものである。本稿では、その中からp. 5「ト音譜表によるc¹-c²」、p. 24「ヘ音譜表によるc-c¹」を使用し、解答に要した時間を計測した。その結果を表2に示す。

4.1. 手法1

まず、表中の手法1は1ページに記載されている48音（1段につき8音×6段）の音名を順に解答していくものである。平均解答時間はト音譜表が1分13秒、ヘ音譜表が1分27秒であった。解答時間が1分を切る者の多くはピアノ学習経験を有し、学習歴は平均して5年であった。中でも学生Qは解答時間が最短であったが、この学生は小学1年～高校3年の計11年間ピアノを習っていたと言う。それに次ぐ学生Iも5歳～小学6年の計7年の学習歴であった。やはり、読譜能力はピアノ学習歴の長さにはほぼ比例していることが見て取れる。一方、学習歴のない者の中には解答時間が2分を超える者もあり、ト音譜表とヘ音譜表を比較した場合はヘ音譜表を苦手とする学生が多いことが分かる。

²⁾ 池田奈々子(編)2006 『書いて覚える徹底!! 譜読 2』 ドレミ楽譜出版社

表2 読譜に要した時間一覧表

学生	ピアノ 学習経験	ト音譜表			へ音譜表		
		手法1	手法2	手法3	手法1	手法2	手法3
A	あり	00:49			01:05		
B	なし	01:13			00:57		
C	あり	00:48			01:04		
D	なし	01:54	01:26	01:15	02:18	01:35	01:23
E	あり	00:45			01:05		
F	なし	00:49			01:23		
G	短大入学～	01:28	01:13	01:30	02:42	01:46	02:13
H	あり	00:43			00:50		
I	あり	00:39			00:44		
J	あり	00:41			01:04		
K	あり	00:57			01:07		
L	短大入学～	00:43			01:04		
M	なし	02:40	01:58	02:21	02:30	01:58	02:02
N	短大入学～	02:20	01:41	01:36	01:37	01:20	01:23
O	なし	02:24	01:36	01:28	02:56	02:05	02:31
P	あり	00:52			01:01		
Q	あり	00:31			00:31		
R	なし	01:12			01:15		
S	あり	00:54			01:10		
T	なし	01:20	01:25	01:10	01:28	01:23	01:23
U	なし	01:48	01:30	02:00	02:30	02:04	02:50
平均所要時間		01:13	01:28	01:35	01:27	01:44	02:07

※網掛けは3回中、解答時間が一番速いものを示す

4.2. 手法2

手法2では、手法1の平均解答時間よりも遅かった7名のみを対象を絞った。この手法は各段の最初の音の音名を予め記しておき、解答前の注意書きとして「その音を頼りに横へ横へと目を追っていくこと」と示し、手法1と同様に解答してもらった。

この注意書きには2つの意図がある。1つは手法1の際、読譜を苦手とする学生は最初の1音を読むことに大変苦労している状況が見られ、それを予め示しておくことで、読譜速度が上がるのではないかと考えたためである。もう1つは、一音一音を別個に認識するのではなく、横に目を配って譜を読むことにより、今解答した音符に対し、次の音は高いのか低いのか、それとも同じなのか、その意識が高まり読譜が速くなるのではないかと考えた。それは、筆者が日頃学生に指導を行っている中で、楽譜を横のラインで読んでいく学生が非常に少ないことを感じているためである。例えば、今弾いている音と次に弾く音が同じであった場合、五線譜を横に追っていくことで2つの音の高さが共通していることに気が付くが、読譜を苦手と

する学生は音符を一音一音単体で見えてしまうがために、その共通性を認識出来ない様子が見られる。そのため上記の注意書きを示し、楽譜を読む際の手立てとしてもらった。

その結果、手法 2 の平均時間は、ト音譜表が 1 分 28 秒、ヘ音譜表が 1 分 44 秒であった。この 7 名の手法 1 の平均時間は、ト音譜表が 1 分 59 秒、ヘ音譜表は 2 分 17 秒であり、ヘ音譜表に至っては全体平均よりも約 1 分遅かった。しかし、各段の 1 音目を記しておくことにより、両譜表とも約 30 秒の短縮が見られた。

解答後、手法 1 との違いについて学生に尋ねたところ、学生 G は「いつも 1 音目を読むのに時間が掛かってしまうので、最初の音名が記してあるとそれがヒントとなって、次の音を早く判断することが出来た」と答えた。また、学生 D は「普段、音符を一つずつ追ってしまうので、五線譜を横に見ていくことを意識するだけで、譜を速く読むことが出来た」と回答した。このことから、読譜を苦手とする学生にとって、1 音目を読む手掛かりを掴むことに苦労していることが伺える。そのため、音名を判断するための「手掛かり」を与えることにより、その音を頼りに次の音との関係性を見出すことが出来、譜を速く、正確に読めるようになると言える。

4.3. 手法 3

手法 2 によって、音名を判断するための「手掛かり（ヒント）」を与えることにより、読譜が速くなることが判明した。そこで、手法 3 では手法 2 のような音名のヒントは与えず、予めト音譜表では第 2 線、ヘ音譜表では第 4 線をマーカーで色付けし、解答前に「色で示した線上にある音は？」という質問に答えてから解答するように指示した。つまり、ト音譜表の第 2 線はソ、ヘ音譜表の第 4 線はファであり、それぞれの線上の音を意識させることにより、それが手掛かりとなって速く正確に読めるのではないかと考え、この手法を取った。

結果として、ト音譜表では 4 名が手法 3 によって最短時間を記録した。しかし、ヘ音譜表では 2 名が解答時間の短縮を図れたが（うち 1 名は手法 2 と同タイム）、残り 5 名は手法 2 よりも時間が掛かってしまった。このような事態が起こった理由について、学生の意見をもとに次のように考える。学生は、ト音譜表の第 2 線がソであることを元々知っており、普段から色付けした第 2 線を基準にして譜を読むことがある。そのため、「色で示した線はソである」という音名への変換を瞬時に行うことが出来、結果として解答時間の短縮につながったものと推察する。しかし一方、ヘ音譜表では、普段、譜を読む際に第 2 間のドなどを基準としており、今回色付けした第 4 線を基準にしている者は少ないことが分かった。そのため、色付けした第 4 線をファと認識することに時間が掛かってしまい、結果ト音譜表よりもこの手法

の効果が薄く、また手法 2 よりも平均時間が長くなってしまったものと思われる。今回、ト音譜表は第 2 線、ヘ音譜表は第 4 線と予め指定した上で色付けし、全員に同じ形態で取り組ませたが、それぞれの学生が普段基準としている線の色付けして解答させたならば、これとは異なる結果が得られたのではないかと考える。

5. 考察

本稿では、初見演奏に必要な基礎能力、「読譜」に焦点を当て、指導者としてどのようなアプローチをすれば読譜能力の効果的な育成が図れるか、いくつかの手法を用いて検証を試みた。

その結果、読譜を苦手とする学生は、譜を読むことに集中してしまいがあまりに、楽譜全体を見渡すことが出来ず、音符を一音一音単体に認識してしまう傾向にあることが明らかとなった。そのため、読もうとしている音符に対し、その前後の音符の高さとどのような関係性にあるのかという意識が薄くなり、結果として読譜の速度が遅くなり、加えて正確さに欠けてしまうと考えられる。このような傾向を踏まえ、いくつかのアプローチを試みた結果、読譜を苦手とする学生には、譜を読むためのきっかけ作りとして 1 音目の音名を予め提示することにより、その音を基にして、速く、正確に譜を読めるようになることが実証された。またその際、学生が音符を単体で認識してしまいがちであることを踏まえ、五線譜を横に目で追っていくようにと指示した。それにより、一つ前の音とその次の音との音高の関係性を認識することが出来、読譜の正確さも速度も上がる事が判明した。

しかし、これは読譜能力育成のための第一歩となる指導法の検討であり、やはり手法 2 で予めヒントとして示した 1 音目を、学習者自身が認識出来るようになることが一番の目標である。今回、第 4 章で行った手法 3 の結果が筆者の予想を反するものであったが、もしかしたら手法 2 にを用いて読譜に関する問題を繰り返し解き、その後手法 3 へ移行し、読譜のための基準となる線を徐々に覚えて行くことが出来れば、手法 3 のアプローチは決して的外れなものではないと考える。今回、最も惜しまれることは、本来であれば半年、1 年という長期的な単位で学習の経過を見ていくべきものを、本学のカリキュラムでは読譜に関する指導（ワークブックの取り組みなど）を行っていないため、授業内の限られた時間での検証となってしまったことである。

今後は同様の手法を用い、長期的な検証を行っていきたい。また、学生全体としての読譜能力育成のためにも、本学のカリキュラムを見直し、授業内でこのような課題に取り組んでいく必要があるだろう。

【参考文献】

1. 安藤 恭子 藤田 桂子 森 久見子 2011 「基礎技能(音楽1)－読譜－」 『名古屋女子大学紀要 家政・自然編 人文・社会編』 第 57 号 名古屋女子大学 pp. 265-277
2. 岩口 摂子 2008 「保育者養成における音楽教育の基礎研究 2: 簡易読譜力調査を通して」 『相愛大学研究論集』 第 24 卷 相愛大学 pp. 191-213
3. 小池 美知子 上村 聖子 木村 真由美 2005 「保育者養成における鍵盤楽器指導に関する研究(3): 読譜力育成のための指導について」 『今治明德短期大学研究紀要』 第 29 集 今治明德短期大学 pp. 27-39
4. 高御堂愛子 2011 「保育者・小学校教諭を目指す学生の読譜力とリズム感について: 東海学園大学人文学部発達教育科第 2 期生の実態調査より」 『東海学園大学研究紀要: 人文科学研究編』 第 16 号 東海学園大学 pp. 131-147
5. 吉田直子 2011 「読譜力と音楽的基礎能力との関連性について: 音高イメージを持って楽譜を読むことができるようになるために」 『教育実践研究紀要』 第 11 号 京都教育大学附属教育実践センター機構教育支援センター pp. 59-67

2015年度関東短期大学キャンパスことばの調査報告

中野真樹

1. 本研究の目的

「キャンパスことば」とは、若年層の位相語とされる「若者ことば」のなかでも、とくに大学生が大学のキャンパスの中でおもにつかうことばである¹。これまでさまざまな大学においてキャンパスことばの調査研究がなされている。また、その結果をまとめた「キャンパスことば辞典」や「キャンパスことば用語集」が、複数公開されている。これらの「キャンパスことば」の報告例について2000年台初頭までに刊行されたものについては、中東（2004）で網羅的にまとめられている。その後もキャンパスことばについての調査研究やキャンパス用語集の作成は継続的に行われている²。これらの調査研究は多くは4年制の学生数の多い大学でおこなわれている。2年制の単科短期大学である関東短期大学は、これらの大学で観察されたキャンパスことばとどのような異なりがみられるのか、そして群馬県の南東部に位置する館林市にキャンパスをおくという地理的特徴がキャンパスことばに与える影響を考察していくこととする。また、末に資料編として今回の調査で採取されたキャンパスことばを整理して掲載する。

2. 関東短期大学の概要

関東短期大学は、1946年に群馬県館林市で開校した「関東女子専門学校」をその前身とする、2年制の私立短期大学であり、幼稚園教諭と保育士の養成をすることも学科の単科大学となっている。学生募集人数は1学年あたり150人である。所属学生のうち男子学生は1割程度であり、女子学生の割合が非常に高い。関東短期大学のある館林市は、群馬県の南東部に位置する。そのため、学生は群馬県南部の出身者が多い。さらに栃木県佐野市、埼玉県羽生市とも隣接しているため、通学圏内の栃木県、埼玉県出身の学生の割合も多くなっている。また、数は多くはないが、

¹ 米川（2009:21-22）

² 中東（2004）にまとめられたもの以降の調査としては、一橋大学での調査に原田（2013）、九州共立大学の調査に岡田（2011）、長崎大学での調査に藤本（2009）、福岡女子大学での調査に坂本（2008）（2007）、常磐大学での調査に早野（2006）、甲南大学での調査に都染（2006）等がある。

福島・新潟・長野・茨城等東日本を中心に他県の出身者も毎年入学している。このように、群馬県の大学とほいうものの、県境にあるために他県からの通学者が多いというのが特徴といえる。系列校として、4年制大学の関東学園大学と、その附属高校がある。関東学園大学は群馬県太田市にあり、キャンパスの位置が離れているため、短大との学生間の交流は盛んではない。附属高校は関東短期大学と隣接しており、その卒業生が毎年十名程度入学する。短大生の卒業後の進路は、保育所、幼稚園、医療・福祉施設といった資格を活かした就職がほとんどであり、編入学や一般企業への就職は毎年数名ほどである。地域別にみると、群馬県、埼玉県、栃木県への就職者数が多くなっており、3県あわせて全体の8割以上となっている。

在籍する学生はほとんどが、保育士資格と幼稚園教諭資格の両方あるいはそのどちらか一方の資格の取得を目指しているため、教育実習必修科目が多く、座学ばかりではなくピアノや体育などの実技科目を受講する。そして、授業の合間に最大で合計2ヶ月程度の教育実習期間があるなどといったカリキュラム上の特徴がある。

学校行事が多いのも特徴であり、4月におこなわれる1年生を対象とした校外研修をはじめ、5月のスポーツ大会、7月の七夕祭り、10月の学園祭（アザリア際）、12月のクリスマス会、3月の卒業パーティーといった学生主体の行事が行われる。また、年間に十数回おこなわれるオープンキャンパスにも、1・2年生混成の学生スタッフが参加している。部活動・サークルとしては、運動部ではソフトボール部、ダンス愛好会、バスケットボール部、バドミントン部、バレーボール部、サッカーサークルがある。文化部では、演劇部、軽音吹奏楽部、和太鼓サークルがある。

このように、関東短期大学は学生数が多いとはいえない単科大学であり、おおくの学生が2年で資格を取得して卒業する。そのため、4年制の大学にくらべて比較的時間の制限も多く、多忙な学生生活を送っている傾向にある。部活動やサークル活動についても、実習期間中は活動を行えないなど、活動にあてられる時間は少なくなっているといえる。しかしながら、学校行事などが盛んであり、行事を通して学生間の交流も行われ、人間関係が密接になるという特徴がある。このような大学であられるキャンパスことばは、他の大学とくらべてどのような特色があるのか、以下で検討していくこととする。

3. 調査方法

調査は、全部で2回行った。1回目の調査は、7月に2年生の必修科目である「日本語表現Ⅱ」の時間で実施した。まず、こどものことば、職業語などといった位相語や絵本や物語等につかわれる役割語の説明を行ってから、キャンパスことばにつ

いて紹介した。その後、自由記述式のアンケート用紙を配布し、関東短期大学でつかわれるキャンパスことばと、その用例を採取した。その際、出身地もしくは育成地もあわせて記入してもらうこととした。また、研究倫理の観点から、差別語に相当する語や特定の個人や集団を中傷することばは記入しないように指示をした。その結果、131語のキャンパスことばを採取できた。2回目の調査は、1年生を対象として11月の「日本語表現Ⅰ」の時間に、同様の調査を行って231語のキャンパスことばを採取した。あわせて、第1回の調査で採取した132語について(1)知っていて自分でもつかう(2)知っているけれど自分では使わない(3)知らない、の3択から選択するというアンケートを別途行った。このアンケートについては、出身地・育成地のほかに所属サークルの有無を記述する欄をもうけた。

4. 調査結果

2回の調査で採取したキャンパスことばは、合計362語となった。しかし、これらの中には、キャンパス内で使われるものばかりではなく、サークルのみで使われる語、親しい友人数名のみに通じる特殊な言い回しなどを含んでおり、関東短期大学のキャンパスことばとは言いにくい語もあげられている。また、関東短大以外の大学でも広くつかわれる語や、若者ことば、バイト用語、広く一般化している縮約語、そしてさまざまな地域の俚言と思われる語も含まれている。キャンパスことばについての論考や、キャンパスことば辞典等では、これらの語についても広くとりあげられているのが一般的である。また、同じ大学に所属していたとしても、すべての人間が知っていて、使用する語というものを想定するのは非現実的であり、組織に所属する集団内の人間の多様性・流動性を無視することになるだろう。本稿では、キャンパス内でのみつかわれる語ばかりではなく、若者言葉やバイト語に相当するものについても、「関東短期大学の学生が使うことば」としてひろく考察の対象とすることとする。

まず、採取されたキャンパスことばを、説明文や用例をもとに判断して、「キャンパスことば」「サークルことば」「店名・施設名等の固有名詞」「学校名」「バイト用語」「俚言」「略語」「若者ことば」のいずれかに分類することとした。「キャンパスことば」は、関東短期大学キャンパス内で特につかわれることばである。「サークルことば」は、関東短期大学の部活・サークル内でつかわれる語である。「店名・施設名等」は関東短期大学やその通学範囲内にある商店や施設、イベント名等の略語である。「学校名」は、出身高校の呼び方である。「俚言」は、地域の俚言とおもわれる例をまとめたものである。これは、群馬県ばかりではなく、福島・新潟などの地

方出身者のものも含む。「略語」は、前の4分類にあてはまらないもので、縮約し
て言う語をまとめたものである。これらのいずれにも当てはまらないもので、一般
的に若年層がよくつかう語を、「若者語」とした。以下に、具体例をあげる。

（1）キャンパスことば

キャンパスことばとして分類したものは、「学食（学生食堂）」「学駐（学生駐車場）」
「デント（スチューデントホール）」「ホール（レクチャーホール）」といった学内施
設名や「ピアノ（器楽）」「リトミ（リトミック）」「表現（環境内容表現）」などの科
目名、「スポ大（スポーツ大会）」「アザリア（学園祭であるアザリア祭のこと）」と
いった行事名の縮約形が中心となっている。また、学生個人のあだ名として「チョ
ゴリ」「まきお」「イッチー」等が採取できた。このうち、「イッチー」に関しては、
その派生形として「イッチー盛り」ということばが報告されている。「イッチー」は、
いつも学生食堂でたくさん食事をたべることで有名な一年生男子学生である。学生
が学生食堂の職員にたいして「イッチー盛り」を注文すると、通常の大盛りよりも
多い量の盛りの白米を提供してもらえる。このように、キャンパスことばは、学生
間のみならず、学生と職員のあいだでつかわれる場合もある。

（2）サークルことば

ある部活やサークルに所属している学生間で特に使われる語を、「サークルことば」
とした。これらの内訳としては、「バド部（バドミントン部）」「バスサー（バスケッ
トサークル）」「陸部（陸上部）」「吹部（吹奏楽部）」「チア部」といった部活・サー
クル名の縮約形と、部活内部で使われる専門用語に分類することができる。専門用
語の例として、演劇部の「上手・下手」「消え物」や、和太鼓部の「抱え」「尺七」、
バレーボール部の「ナイスキー」「ナイッサー」等がある。ただし、関東短期大学に
は存在しないと思われるサークルの例もあげられており、他大学との交流を行う際
に用いられる語であるか、高校までの部活でつかわれていた語である可能性もある。

（3）店名・施設名等の固有名詞

関東短期大学やその周辺にある店舗や施設、イベント等の縮約形が中心となる。
これらは全国的に展開しており、広い地域で用いられていると思われる「スタバ（ス
ターバックスコーヒー）」「サイゼ（サイゼリア）」などの例もある一方、関東短期大
学の近くにある個人経営店の名前や、北関東、北関東を中心に展開している縮約形
が採取できた。また、一つの店名にいくつかの縮約形があらわれる例がみられた。
たとえば、北関東を中心に展開する書店「文真堂書店」には、「文真」と「文堂」の

2形があらわれた。また、もっとも語形が多かったものが、コンビニエンスショップの「ミニストップ」である。2回の調査で「ミップ」「ミニスト」「ミニス」の3形が採取された。

(4) 学校名・地名

近隣の大学・高校・中学の呼び名、およびまた、通学の際に学生が頻繁に利用する近隣の駅の呼び名についても、「学校名・地名」としてまとめた。ほとんどが4モーラ語の縮約形となる。たとえば、栃木県足利市にある「足利短期大学」は「足短」と呼ばれている。また、東武伊勢崎線の館林駅は、学生によって「館駅」と呼ばれている。このように、学校名の語頭の2モーラに「～大」「～高」「～中」「～小」「～駅」が接続して4モーラとなる構成が多い。ただし、群馬県立大泉高校は「ポテ高」と呼ばれているような例外も見られる。

(5) バイト語

おもにアルバイト先でつかわれる語彙について、「バイト語」と分類した。学生がおこなうアルバイトは、接客業が多い。特に、仕事中にトイレに行くことを客に悟らせないように仕事仲間に伝えるときのバイト語として、「1分」「2番」「4番」の語があらわれた。同じ動作であっても、バイト先や地域によってバイト語が異なっていることがわかる。

(6) 俚言

学生の出身地・育成地の地域特有の語彙を、俚言としてまとめた。ただし、学生は隣接する他県から通学する者も多く、群馬県館林市以外の地域の俚言もある。代表的な例としては、「大丈夫」の意味でつかわれる「だいじ」である。これは群馬・埼玉・栃木等でつかわれる俚言であり、若年層である短大生にも日常的につかわれているようである。

(7) 略語

上記(1)～(6)にあてはまらないもののうち、語の縮約形・省略形とみられる語を略語とした。そのなかには「オケオ(カラオケでオールをすること)」などのように若者がおもに使う語も多くあるが、「群銀(群馬銀行)」などの若者のみならず一般的に使われると思われる語もある。

(8) 若者ことば

上記（１）～（７）にあてはまらないものを若者ことばとした。キャンパス内だけで使われているわけではなく、「おなしゃす（おねがいします）」等の若年層がおもにつかう語をここでまとめた。

その他に、語源が不明であるものや若者言葉であるか判断できないものを「その他」に分類した。これらの調査結果一覧にしてまとめたものを、資料として末尾に掲載した。ただし、個人が特定される恐れのある語や、研究倫理の面からふさわしくない差別語や特定の個人や企業等の中傷する記述のあるものは掲出しない。

5. 関東短期大学キャンパスことばの特徴

5. 1 地理的言語特徴

群馬県は基本的には関東北西部方言に属し、東京語と共通する点が多く、アクセントについても、ほとんどの地域が東京式であると言われている³。関東短期大学のある館林市は、隣接する邑楽郡とともに、言語的には群馬県東南部方言に位置づけられる。この方言の特徴として、アクセント体系が東京式アクセントとことなっていることがあげられる。ただし関東短期大学は、構成員が 18～20 歳を中心とする若年層である点や、東京語と共通する特徴が多い群馬県中央部方言域である前橋市から通学する学生、埼玉県・栃木県にある自宅から通学する学生も多いことから、学生の普段の談話のなかに伝統的な館林・邑楽地域の方言特色を見出すことは難しい。語彙の面でも資料のなかで「俚言」として掲出されたものは「だいじ」以外は新潟県・福島県・群馬県安中市・栃木県・埼玉県の出身の学生による報告であり、群馬県館林市の語彙的特徴というものはほとんどキャンパスことばには出現しなかった。ただし、地名・学校名の略語や北関東を中心に展開している店舗名の略語などの固有名詞には地域的な特徴があらわれている。

5. 2 若者ことばとしての関東短期大学キャンパスことば

キャンパスことばのなかで一番多かったものは、略語である。学校名・店名についてもほとんどが略語であった⁴。日比谷（1998）によると、複合語の縮約形としては、前部要素の語頭 2 モーラと後部要素の語頭 2 モーラを組み合わせた 4 モーラ語が一番多いということであった。本調査のなかでも、学校名・店名の縮約形、および略語を合計すると 209 語となる。そのうち 4 モーラ語となったものは 139 語で

³ 平山（1997:2-4）

⁴ 「学校名・地名」については、語数が多く、関東短期大学の地域的な特徴がよく現れる語として、略語のなかから特に取り出した。

一番多く、ついで3モーラ語が60語、2モーラ語が9語、1モーラ語が1語となり、日比谷(1998)の考察結果と一致する。4モーラ語となる場合が多い略語について、特に3モーラ語が出現する条件について考察したものとして、森(2002)がある。それによると、略語を作成するとき、たとえば後部要素の2モーラめが長音となる場合は、その長音部分が省略されて3モーラ語となることが報告されている。本調査においてもその傾向はあらわれており、たとえば群馬県を本拠地とするスーパーマーケットの「ベイシアマーケット」は「ベイマ」となる例や、群馬県大間々市のショッピングモール「さくらもーる」は、「さくも」とよばれるといった例がみられた。本調査で特筆したい点としては、地名の「伊勢崎」が前部要素になる複合語の略語については、縮約する場合にはほとんど「イ」の1モーラとなるという法則があった。これは複数名の学生から報告されているものである。後部要素は「ドン・キホーテ(ディスカウントショップの店名)」「ベイシアマーケット(スーパーマーケットの店名)」「市役所」「高校」「工業高校」「商業高校」「駅」が報告されており、「伊勢崎」の縮約形が「イセ」となるのは「イセエキ(伊勢駅)」1語のみであった。他のものについては、それぞれ「イドン」「イズベ」「イヤク(伊役)」「イコウ(伊高、伊工)」「イタカ(伊高)」「イショウ(伊商)」となり、いずれも3モーラ語となる。このうち「イコウ」については「伊勢崎高等学校」と「伊勢崎工業高等学校」の2校の略語が同音となっている。「伊勢崎高等学校」には「イコウ」と「イタカ」の2形の縮約形があらわれるのはこの同音衝突を解消するためであると考えられる。また、「伊勢崎にあるベイシア(スーパーマーケット名)」は「イズベ」となり音変化を起こしている。(森2002)によると、3モーラ語の出現には漢字1字が1音となる場合の漢字表記の影響が示唆されているが、「伊勢崎」についてもこれがあてはまるものと考えられる。

いずれにしろ、本調査で採取できたキャンパスことばは、他の地域のキャンパスことば・若者ことばと音声面での共通点がおおいものであるといえるだろう。

5.3 同語異略形について

関東短期大学の特色として、栃木・埼玉2県との県境にあるため、他県からの自宅通学者が多いというものがある。キャンパスことばについても、この特徴を反映するものとして、コンビニエンスストアの「ミニストップ」の略語について、「ミップ」「ミニスト」「ミニス」の3形が観察された⁵。アクセントはいずれも平板型であった。このうち、「ミップ」と「ミニスト」については、第1回の調査で採取でき

⁵ 全国的には、ミニストップにはそれ以外に「ミニップ」という縮約形も見られるようであるが、本調査ではあらわれなかった。

た例であり、第 2 回の調査であわせて認知率と使用者の出身地を調べているため、使用者の出身地・育成地の分布を知ることが可能である。それを整理したものが表 1 である。アンケートでは、「ミップ」「ミニスト」ということばについて、(1) 知っていてそのことばを使う (2) そのことばを知っていたり聞いたことがあるが自分では使わない (3) そのことばを知らない、の 3 つの選択肢の中から選んで回答してもらった。この調査の有効回答数は 107 であった。

表 1 コンビニエンスストア「ミニストップ」の縮約形認知度

	知っている・使う	知っているが 使わない	知らない
ミップ	60 (56%)	31 (29%)	16 (15%)
ミニスト	34 (32%)	25 (23%)	48 (45%)

表 1 から、「ミップ」が優勢であることがわかる。しかし、「ミニスト」をおもに使うとした回答や、「ミップ」と「ミニスト」両形を使用するという回答も多くあった。このアンケートでは出身地・育成地を記入してもらっている。その個人の申告をもとに、「ミップ」もしくは「ミニスト」が使用される地域を異なりで示した。

「ミップ」をおもに使うと回答した学生の出身地

群馬県（安中市・伊勢崎市・邑楽郡・太田市・桐生市・館林市・玉村郡・藤岡市・みどり市）・埼玉県（行田市・深谷市）・栃木県（足利市・古河市・栃木市・佐野市・日光市）・新潟県（佐渡市）・福島県（郡山市）

「ミニスト」をおもに使うと回答した学生の出身地

茨城県（水戸市）群馬県（太田市・桐生市）・埼玉県（羽生市・加須市）栃木県（鹿沼市・佐野市）・新潟県（新潟市）・兵庫県（姫路市）

両形使用する・知っているとは回答した学生の出身地

群馬県（邑楽郡・太田市・桐生市・館林市・前橋市）・埼玉県（加須市）・栃木県（足利市・古河市・佐野市）・新潟県（上越）・福島県（郡山市・磐梯市）

両形知らないとは回答した学生の出身地

群馬県（桐生市・前橋市・みどり市）・埼玉県（熊谷市・深谷市）・山形県（鶴岡市）

5. 2で確認したように、一般的には略語は4モーラ語が圧倒的に多い。しかし、本調査においては3モーラ語である「ミップ」が、優勢であった。また、地域による使用状況については個人差はあるものの、おおよその傾向がみえた。群馬県・栃木県・福島県では「ミップ」が優勢となっている。特に、伊勢崎市・邑楽郡・館林市出身者のなかで「ミップ」を知らないと回答した学生はいなかった。一方、「ミニスト」が優勢であったのは、埼玉県に加須市・桐生市の出身者であった。また、「ミップ」も「ミニスト」も知っていて、どちらも使うと回答した学生も、群馬県・埼玉県・栃木県を中心に存在した。コンビニエンスストア「ミニストップ」を「ミップ」と縮約する学生の人数が多いのは、館林市にある関東短期大学の地域的特色といえるだろう。同時に、「ミップ」「ミニスト」「ミニス」というように、同一の店名に複数の縮約形があらわれるのも、埼玉県・栃木県の県境に位置する関東短期大学の特色といえる。

5. 4 関東短期大学におけるキャンパスことばの継承

集団語としてのキャンパスことばの特徴として、構成員の流動性をあげることができるだろう。大学のシステム上、組織に所属する人員は、数年でほぼ入れ替わる。特定の友人同士の数名で使われ、その学生が卒業してしまうと使われなくなる語は身内語・仲間語などといわれるが、それとは異なり学内で広く知られ、使われ、学年を超えて継承されていくというのが典型的なキャンパスことばの形といえるだろう。このようなキャンパスことばの継承には、他学年同士の学生の接触の場が必要となってくる。サークル活動などの学内課外活動がそのような場として大きく影響していることが考えられる。ところで、いままで調査されてきたキャンパスことばは、ほとんどが4年制大学のものである。一方、2年制であり、資格取得のために課外時間の制限がおおきい関東大学において、どのようにキャンパスことばの継承が行われているのか、考察していくこととする。

2年生を対象とした第1回目のアンケートで採取した語のうち、キャンパスことばに分類したものについて、入学半年後の一年生にどれだけ知られているか、第2回目のアンケートで調査した。ここで使用した語は、「スポ大」「チョゴリ」の3語である。「スポ大」は、毎年5月に行われるスポーツ大会の4モーラ略語である。「チョゴリ」は、2年生の1人の男子学生のあだ名である。この2語について、(1)知っていてそのことばを使う(2)そのことばを知っていたり聞いたことがあるが自分では使わない(3)そのことばを知らない、の3つの選択肢の中から選んで回答してもらった結果をまとめたものが、表2となる。この調査の有効回答数は112であった。

表 2 「スポ大」「チョゴリ」の認知度

	知っている 使う	知っているが 使わない	知らない
スポ大	101 (91%)	8 (7%)	3 (2%)
チョゴリ	31 (27%)	20 (18%)	61 (55%)

表 2 より、「スポ大」という語は、アンケートに回答した学生のほとんどが知っていた。スポーツ大会は全員参加のクラス別の対抗戦の行事であるため、認知度は高くなっているといえるだろう。ただし、スポーツ大会という行事は高校などでも一般的に行われていることもあり、関東短期大学に特有のものではない。また、4 モーラの略語はキャンパスことばとしては最も多くあらわれる形であり、「スポ大」という語がキャンパスことばとして継承されたものであるか、同時自然発生的に用いられているものであるのかは判別しがたい。一方、「チョゴリ」は 2 年生男子学生のあだ名であり、本来であれば友達が数人使う程度のものであり、「キャンパスことば」とはいいいにくい面もある。しかしながらそのあだ名を知っている一年生は、今回の調査では 4 割以上となっている。そのうち、27%の学生が実際に「チョゴリ」というあだ名で呼びかけていることもわかった⁶。ここから、2 年生の間で発生した私的な語が、1 年生にも一定程度知られている例があることがわかった。このような語彙の広まりには、部活・サークルの影響が大きいと思われる。そこで、「チョゴリ」のサークル別認知度を示したものが表 3 となる。

表 3 「チョゴリ」所属サークル・部活別認知度

	知っている 使う	知っているが 使わない	知らない	計
運動部	22 (59%)	4 (17%)	4 (24%)	30
文化部	4 (50%)	0 (0%)	4 (50%)	8
無所属	5 (7%)	16 (22%)	53 (71%)	74

表 3 より、「チョゴリ」という語を知っている 51 名の学生のうち、26 名の学生

⁶ 一年生は「チョゴリさん」「チョゴリ先輩」などと敬称をつけて呼ぶのが普通であるということであった。

が運動部に所属していることがわかった。そのうちの22名については、実際に「チョゴリ」というあだ名で2年生に呼びかけていることがわかった。運動部に所属していると回答した30名のうち、チョゴリという語を知らない学生は4名であったが、その内訳はサッカー部2名、ダンスサークル2名であった。ただし、サッカー部、ダンスサークル所属であって「チョゴリ」を知っている学生もそれぞれ2名ずついた。バレー部、バスケットボール部、バドミントン部に所属する学生は全員「チョゴリ」を知っていると回答している。一方、部活・サークルに所属していない学生は74名であったが、そのうち「チョゴリ」を知っている学生は21名であった。その中でも、実際に使用するという学生のうち2名については、これまでにアザリア祭・オープンキャンパスの実行委員として2年生との交流を持っている経験があった。

チョゴリ氏自身は、バレー部とバスケットボール部を兼部している。これらの部所属の1年生に「チョゴリ」の認知度が高いというのは、このためであろう。また、チョゴリ氏が所属しない部活であっても、なんらかの部活に入っている学生は、「チョゴリ」という語を知っている傾向がある。チョゴリ氏以外の2年生との交流のなかでも、2年生の「仲間語・身内語」が1年生にひろまっていることがうかがえる。ここから、キャンパスで上級生から下級生への語の継承には、部活動・サークルの影響が大きいことが考えられる。

6. おわりに

これまで、関東短期大学のキャンパスことばを2回のアンケートから調査し、その特徴について考察してきた。関東短期大学は館林市に古くからある学校である。館林市は埼玉県・栃木県と隣接するという地理的特徴があり、他県からの自宅通学生が多いことなどから、館林の伝統的方言特徴というものはキャンパスことばからはほとんど見出すことはできなかった。しかしながら、たとえばコンビニエンスストア「ミニストップ」の縮約形として「ミップ」を使用する学生が多いことや、北関東あるいは群馬県を中心に展開しているチェーン店の縮約形が若者ことば、キャンパスことばとしてよくあらわれるというように、地域的要因による固有名詞の語彙については、その地方の特性がうかがえるものとなっている。その一方、ミニストップの略語におもに「ミニスト」を使い、「ミップ」を使わないという学生も、埼玉からの通学生を中心に一定数いた。このような語彙的な多様性も、関東短期大学キャンパスことばの特徴といえるだろう。また、キャンパスことばとしての特徴としては、4モーラ語の略語が多く採取できており、他のキャンパスことば辞典等と

共通する点が多いといえるだろう。

また、2年制の短大ということもあり、4年制の大学と比べてキャンパスことばの認知度・普及度はどのような特徴があるかを調査した。それによると、行事名「スポーツ大会」の略語「スポ大」は、1年生の後期にはほぼ全員の学生が知っているという結果が出た。また、本来であればキャンパスことばというよりは身内語・友達語とするほうが適当と考えられる2年生男子学生のあだ名を、運動部所属学生を中心に、1年生の3割程度が知っていることがわかった。単科大学であり学生数がすくないうえに、さらに男子学生がすくなく、顔見知りであることにくわえて、部活・サークル活動をとおして1年生と2年生が交流をするなかで、もともと2年生しか使っていなかったことばが、1年生にも広まっていく過程を観察できた。このことから、キャンパスことばの継承は、かなり早い段階ではじまっていることと、それにはサークル・部活動が多くの影響をあたえていることが推察できた。2年制の大学でも、キャンパスことばは発生・継承されていることが今回の調査で明らかとなった。

今回の調査は、各学年それぞれ1回ずつのアンケート調査であったため、2年生については店舗名の略語の地理的分布や、1年生がおもにつかうキャンパスことばの認知度の調査を行なうことができなかった。

また、今回の調査からキャンパスことばの継承にはサークル・部活動の影響が大きいことが推察できたが、確認のためには経年的な調査が必要となるだろう。今後は、調査項目の見直しを行なったうえで、調査をかさねていくことで、関東短期大学のキャンパスことばの特徴について精査していきたい。

引用文献

岡田祥平（2011）「九州共立大学キャンパスことば集(第1版)」『九州共立大学研究紀要』2-1

坂本浩一(2008)「一地方公立女子大学における学生キャンパスことば生活調査報告：福岡女子大学キャンパスにおける「ウチ」・「ソト」意識の形成をめぐって」『香椎潟』54

坂本浩一（2007）「一地方公立女子大学におけるキャンパスことば生活に関する社会言語学的研究：福岡女子大学文学部国文学科学生を主たる対象とした2005・2006年度言語生活調査の概要」『香椎潟』53

都染直也（2006）「キャンパスことばと方言--甲南大学(神戸市東灘区)を例として(特集 若者の方言)」『日本語学』25-1

中東靖恵（2004）「キャンパスことば研究のこれまでとこれから」『岡山大学言語学

論叢』11

原田幸一 (2013) 「一橋大学キャンパスことば調査」『一橋大学国際教育センター紀要』4

早野慎吾 (2006) 「キャンパスことばの研究：常盤大学(茨城県水戸市)の調査から」『宮崎大学教育文化学部紀要 人文科学』14

日比谷潤子 (1998) 「複合語短縮」『世界の日本語教育』8

平山輝男 (1997) 『日本のことばシリーズ 10 群馬県のことば』(明治書院)

藤本紗弥香 (2009) 『長崎大学キャンパスことばの研究 文化環境研究』3

森 庸子(2002)「3 モーラ複合語略語の生成要因：若者のキャンパスことばから」『音声研究』6-1

米川明彦 (2009) 『集団語の研究 上巻』東京堂出版

【資料編】

2015年度関東短期大学キャンパスことば集

凡例

■2回の調査で採取したキャンパスことばは、合計362語のうち、あだ名などの個人を特定してしまうおそれのあるもの、特定の企業等の中傷しているともとらえられる語、差別語を削除したものを「キャンパスことば集」とする。

■掲載順は見出し・表記・語義・用例・分類とした。アンケートではこの他に出身地を記入する欄があったが、学生個人の特定を避けるために掲載しなかった。

■アンケート結果は記入されていたものをそのまま掲載した。用例などが空欄となっているものは、もともとの記入がなかったものである。(ただし、店舗名等には補足を付け加えているものがある)

見出し	表記	語義	用例	分類
～け	～け	「～なんだ」の意味	「だいじけ」「そーなんけ」	俚言(栃木)
～なんね	～なんね	～だよね		俚言(栃木)
〇〇えんじえる	〇〇エンジェル	とても優しい友人の後ろにつける敬称。	「わー、ほんと〇〇エンジェル！」	若者言葉
あーね	あーね	「あーなるほどね」の略	「〇〇〇じゃね」「あーね」	若者言葉

2015 年度関東短期大学キャンパスことばの調査報告（中野）

あいなな	アイナナ	アイリッシュセブ ンというスマホゲ ームのこと	「アイナナやろ う！」	略語
あいぼん	あいぼん	iphone のこと	「あいぼんなってる よ～」	若者言葉
あざ	あざ	「ありがとう」の こと	「これあげるよ～」 「あざ」	若者言葉
あさかつ	朝活	朝の活動のこと		略語
あさらー	朝ラー	朝食べるラーメン	「明日朝ラーいか ね？」 「いくー」	略語
あざりあ	アザリア	学校祭「アザリア 祭」のこと	10月にアザリアあ るよ	キャンパス
あしぎん	足銀	足利銀行の略	「どこの銀行？」 「あ しぎん」	店名・施設名 等の固有名 詞
あしたか	足高	足利高校のこと		学校名・地名
あしたん	足短	足利短期大学のこ と		学校名・地名
あしなん	足南	足利南高校のこと	「足南出身です」	学校名・地名
あしはな	足花	足利花火大会のこ と	「足花いつー？」	店名・施設名 等の固有名 詞
ありがじゅー	ありがじゅー	「ありがとう」の こと	「ありがじゅー！」	若者言葉
あるたく、て いーたく	R 宅、T 宅	彼氏の家	「R 宅いく？一緒に 乗せて」 「T 宅…… OK」	その他
あんそう	安総	安中総合学園高等 学校のこと	「高校どこ？」 「安 総」	学校名・地名
あんぱい	あんぱい	安心して大丈夫	「工作のテスト大丈 夫？」 「工作はあん ぱい」	若者言葉
いくたん	育短	育英短大のこと	「どこの学校？」 「育	学校名・地名

短				
いける	いける	大丈夫の意味	「〇日、いける？」	若者言葉
いこう	伊高	伊勢崎高等学校		学校名・地名
いこう	伊工	伊勢崎工業高等学 校のこと		学校名・地名
いこむ	いこむ	お風呂につかる	「ちゃんといこみな さい」	俚言（埼玉）
いしょう	伊商	伊勢崎商業高等学 校のこと		学校名・地名
いずべ	イズベ	伊勢崎にあるベイ シアのこと	「どこ行く？」「イ ズベ」	店名・施設名 等の固有名 詞
いせえき	伊勢駅	伊勢崎駅のこと		学校名・地名
いたか	伊高	伊勢崎高等学校の こと		学校名・地名
いたしゃ	イタ車	アニメのキャラク ターが書いてある ようなイタい車の こと		若者言葉
いちきた	イチキタ	一時帰宅のこと	「イチキタするね ー」	略語
いっちーもり	イッチー盛り	イッチー（1年生男 子学生）が学食で 注文したことによ って生まれた言 葉。量が通常の2、 3倍になる	「おばちゃん！ イ ッチー盛りちょうだ い！」	キャンパス
いっちょう	一丁	「注文ひとつ」	「〇〇一丁おねがい します」	バイト
いっぷく	いっぷく	休憩の意味	「いっぷく行ってお いで」	俚言（栃木）
いっぷん	1分	バイトでトイレの こと	「一分いってきま す」	バイト

2015 年度関東短期大学キャンパスことばの調査報告（中野）

いとよー	イトヨー	イトーヨーカドー のこと	「イトヨー行こー」	店名・施設名 等の固有名 詞
いどん	イドン	伊勢崎のドンキの ドン・キホーテの こと	「イドンいこー」	店名・施設名 等の固有名 詞
いもこう	イモ高	大泉高校のこと	「どこ校なん?」「い もこう」	学校名・地名
いやく	伊役	伊勢崎市役所のこ と	「家どのへん?」「い やくの近く」	略語
いるみ	イルミ	イルミネーション のこと		略語
いわえき	岩駅	岩槻駅のこと	「岩駅ついた」「OK、 迎え行く」	学校名・地名
いわちゅう	岩中	岩舟中学校のこと	「中学どこ?」「岩 中」	学校名・地名
ヴいればん	ヴィレバン	雑貨店「ヴィレッ ジヴァンガード」 のこと	「それどこで買った?」「ヴィレバン」	略語
うーろんちゃ	ウーロン茶	うざい、ロン毛、 茶パツ	「あいつまじウーロ ン茶じゃね?」	若者言葉
うちて	打ち手	太鼓を打つ人のこ と	「あの団体の打ち 手、好きじゃない」	サークル
うちやる	うちやる	捨てるの意味	「これ、うちやっちゃ っていい?」	俚言（埼玉）
うつげー	鬱ゲー	鬱になるゲームの こと	「ねえ、〇〇ってゲ ーム知ってる?」「あ ー、出た、それ鬱ゲ ーだよ」	若者言葉
うら	裏	後ろのこと	「裏に荷物おいてい い?」「（車の）裏 のっていい?」	俚言（佐野）
うるうる	うるうる	かなしいこと	「ふられたー、うる	若者言葉

			うる」	
えいご	英語	科目名「英語コミュニケーション」のこと	「次、英語」	キャンパス
えいたー	EIGHTER	関ジャニ∞のファンのこと		若者言葉
えーびーえむ	APM	アンパンマンのこと		若者言葉
えすえむ	SM	掃除機とモップの略	「SMしてきます」	バイト
えふえふ	FF	フライドポテト	FF	バイト
えんげき	演劇	演劇サークルのこと	「今日演劇あるよ」	サークル
おーきゃん	オーキャン	オープンキャンパスのこと	「オーキャン行こうよ」	キャンパス
おかわ	おかわ	かわいいこと	「その服おかわ」	若者言葉
おけ	オケ	カラオケのこと	「オケ行こうぜ！」	若者言葉
おけ	桶	桶胴太鼓のこと	「あの桶の人、下手だね」	サークル
おけお	オケオ	カラオケでオールをすること	「今日、オケオしね？」 「いいよー」	略語
おこらん	お子ラン	お子様ランチのこと		略語
おちゅう	尾中	尾島中学校のこと		学校名・地名
おっ	おっ	「お疲れ様」の略		若者言葉
おっちゅう	邑中	邑楽中学校の略	「どこ中？」 「邑中」	学校名・地名
おとげー	音ゲー	音楽ゲームのこと	「音ゲーしたい」	略語
おとげー	乙ゲー	乙女ゲームのこと	「乙ゲーしたい」	略語
おなしゃす	おなしゃす	「お願いします」の意味	「〇〇しといて！おなしゃす！」	若者言葉
おなん	小南	小南高校のこと	「高校は小南」	略語
おにでん	鬼電	たくさん電話をかけること	「今日鬼電する！」	若者言葉

2015 年度関東短期大学キャンパスことばの調査報告（中野）

おはあり	おはあり	「おはよう」という挨拶に対するお礼の言葉	「おはよう……」「おはあり」	若者言葉
おぺ	オペ (OP)	バイト先でレジのこと		バイト
おりてん	オリテン	オリエンテーションのこと		キャンパス
おれじゅー	オレジャー	オレンジジュースの略	「何飲む?」「オレジャー」	略語
かーねる	カーネル	ケンタッキー・フライド・チキンのこと	「カーネルいこ」	若者言葉
かいかつ	快活	インターネット喫茶「快活クラブ」のこと	「今日どこいく?」「快活」	店名・施設名等の固有名詞
かいんず	カインズ	ホームセンター「カインズホーム」のこと	「どこ行く?」「カインズ」	店名・施設名等の固有名詞
かかえ	抱え	抱え桶のこと	「この曲は抱えで魅せる」	サークル
がくさい	学祭	学園祭	「〇〇大学の学祭いこうよ!」	キャンパス
がくしょく	学食			キャンパス
がくちゅう	学駐	学生駐車場のこと	「学駐まで行こう」	キャンパス
かさしょう	笠小	笠懸小学校のこと	「小学校どこ?」「笠小」	学校名・地名
がそすた	ガソスタ	ガソリンスタンドのこと		略語
かたふる	肩ふる	わらいをこらえて肩をふるふるさせる	「まじかたふる」	略語
かっちゅう	笠中	笠懸中学校のこと	「中学どこ」「笠中」	学校名・地名
がっちゅう	G 中	太田市立東中学校	「中学どこ?」「G」	学校名・地名

		のこと	中」	
かつぷら	カップラ	カップラーメンの こと		略語
かてきよ	かてきよ	家庭教師の略		略語
かまちよ	かまちよ	「かまってちょう だい」の意味	「ねえー、かまちよ ー」	略語
かみこう	上高	上三川高校のこと		学校名・地名
かみて	上手	客席から見て舞台 の右側		サークル
がらけー	ガラケー	ガラパゴスケータ イ		若者言葉
からこん	カラコン	カラーコンタクト レンズのこと	「カラコンつけて る？」	略語
かれかの	カレカノ	彼氏と彼女	「あのカレカノ、お 似合いだね」	略語
かわちゅう	川中	川内中学校のこと	「中学どこ？」「川 中」	学校名・地名
かんがく	関学	関東学園大学附属 高等学校のこと	「出身どこ？」「関 学」	学校名・地名
かんかん	カンカン	ジュースなどの入 っている缶のこと	「カンカンすててく る」	若者言葉
かんきょう	環境	保育内容環境のこ と		キャンパス
がんげー	ガンゲー	シューティングゲ ームのこと		略語
かんすぽ	関スポ	関東スポーツセン ターの略		店名・施設名 等の固有名 詞
がんば	がんば	「がんばって！」 の意味		略語
かんぺ	カンペ	カンニングペーパ ーの略		略語

2015 年度関東短期大学キャンパスことばの調査報告（中野）

きえもの	消え物	舞台上で使う小道具で、使うことによって消えてなくなるもの。食べ物など。	「そこのみかんは消え物にしよう」	サークル
きたちゅう	北中	太田北中学校のこと		学校名・地名
きみうそ	君嘘	映画の「君は嘘を愛しすぎている」のこと	「君嘘見に行こうよ」	略語
きもい	きもい	きもちわるいこと	「あいつきもくね？」	若者言葉
きゅうちゅう	休中	休泊中学校のこと		学校名・地名
きょうあい	共愛	共愛学園高等学校のこと	「高校どこ？」「共愛」	学校名・地名
きょうしゅう	教習	自動車教習所のこと	「今日遊ぼ」「ごめん、教習なんだ」	略語
きりしん	桐信	桐生信用金庫のこと	「きりしん行かなきゃ」	店名・施設名等の固有名詞
きりなん	桐南	桐生南高校	「高校どこ？」「桐南」	学校名・地名
きりにし	桐西	桐生西高校のこと	「高校どこ？」「桐西」	学校名・地名
きんつう	筋痛	筋肉痛のこと	「昨日のスポ大で筋痛やばい」	略語
きんとれ	筋トレ	筋力トレーニングのこと		略語
きんは	キンハ	キングダムハーツのこと		略語
くいげ	くいげ	「食い逃げ」の略	「あの子、くいげじゃん」	略語
くまえき	熊駅	熊谷駅のこと	「あした熊駅？」「改」	学校名・地名

			札の所でよろしく」	
くりぱ	クリパ	クリスマスパーティーのこと	「今年のクリパなにやる？」	略語
くろていー	黒ティー	黒いTシャツのこと	「今日、くろT～！」	略語
くろばす	黒バス	アニメ黒子のバスケのこと	「黒バス見た」	略語
ぐんぎん	郡銀	群馬銀行のこと		略語
ぐんしょう	群商	郡山商業高校のこと	「高校どこ？」「群商」	学校名・地名
ぐんまー	ぐんまー	群馬県のこと	「ぐんまー行こう」	若者言葉
げーせん	ゲーセン	ゲームセンターのこと		略語
けーたい	ケータイ	携帯電話のこと		略語
けし	けし	消しゴムのこと	「けし貸して！」	略語
けしかす	消しカス	消しゴムのカス	「消しカス投げるよ」	略語
けんこう	健康	科目名「保育内容・健康」のこと	「健康だ」	キャンパス
けんた	ケンタ	「ケンタッキーフライドチキン」のこと		略語
けんだい	健大	高崎健康福祉大学高崎高等学校のこと	「高校どこ？」「健大」	学校名・地名
けんび茶	けんび茶	「爽健美茶」の略	「けんび茶かってくる！」	略語
こいばな	恋バナ	恋の話	修学旅行で「恋バナしようよ」	略語
こうだいふ	工大附	足利工業大学附属高等学校のこと	「高校どこ？」「工大附」	学校名・地名
ごち	ごち	「ごちそうさまでした」ごちそうし	ジュースとかおごってもらった時「ごち	略語

2015 年度関東短期大学キャンパスことばの調査報告（中野）

		てもらった時	ーっ！」	
こってり	こってり	「すっかり」の意 味	「こってり忘れて た」	若者言葉
さいすた	さいすた	さいたまスーパー アリーナのこと		略語
さいぜ	サイゼ	レストランの「サ イゼリア」のこと		店名・施設名 等の固有名 詞
さくも	さくも	群馬県大間々にあ るショッピングセ ンター「さくらも ーる」のこと	「今日どこ行く？」 「さくも行こう！」	店名・施設名 等の固有名 詞
さたか	佐高	佐野高校のこと		学校名・地名
さっちゅう	境中	境野中学校のこと	「中学どこだっ た？」 「境中」	学校名・地名
さんごー	さんごー	305 教室のこと		キャンパス
さんばん	3 番	休憩のこと	「3 番行ってきま す」	バイト
さんりお	サンリオ	サンリオピューロ ランドのこと		学校名・地名
しー	シー	ディズニーシーの こと	「来週シー行こう よ」	学校名・地名
しーえる	シーエル (CL)	バイト先でクリニ ックのこと		バイト
じいじ	じいじ	おじいちゃんのこと		若者言葉
しだ	シダ	カラオケシダック スのこと	「シダに行こう」	略語
じっしゅう	実習	教育実習や保育実 習のこと	「実習どうだっ た？」	キャンパス
しもて	下手	客席から見て舞台 の左側		サークル

しゃーぺん	シャーペン	シャープペンシル のこと		略語
しゃくなな	尺七	一尺七寸の太鼓の こと	「あの太鼓は尺七だ ね」	サークル
じゃにしょ	ジャニショ	ジャニーズショッ プのこと	「ジャニショ行こ う」	略語
じょいほん	ジョイホン	関東地方を中心に 展開するホームセ ンター「ジョイフ ルホンダ」のこと	「どこ行く？」「ジ ョイホン！」	店名・施設名 等の固有名 詞
しょうおう	松桜	佐野松桜高校のこ と	「高校どこ？」「松 桜」	学校名・地名
しょうこう	商工	館林商工高等学校	「商工でさあー」	学校名・地名
じょうさい	城西	太田城西中学校の こと	「どこ中なん？」「城 西」	学校名・地名
じょうほく	城北	寄居城北高校のこ と		学校名・地名
じらい	地雷	じゃまなものやこ と	「こいつまじ地雷だ わ」	若者言葉
しらこう	白高	白岡高等学校のこ と	「高校どこ？」「し らこう」	学校名・地名
しんすぼ	心スポ	心霊スポットのこ と		略語
すいぶ	吹部	吹奏楽部のこと		サークル
すけちょう	スケ帳	スケジュール帳の こと		略語
すたば	スタバ	コーヒーチェーン 店「スターバック スカフェ」のこと		店名・施設名 等の固有名 詞
すちゅーでん と	スチューデ ント	学内施設「スチュ ーデントホール」 のこと		キャンパス

2015 年度関東短期大学キャンパスことばの調査報告（中野）

ずっぽ	ずっぽ	チェーンラーメン店「幸楽苑」のこと	「ラーメン食べよー」「んじゃ、ずっぽいくべー」	店名・施設名等の固有名詞
すぽさん	スポサン	スポーツサンダルのこと	「そのスポサン可愛い」	略語
すぽたい	スポ体	関東短期大学で毎年4月に行われる行われるスポーツ大会のこと	「スポ大がんばろう！」	キャンパス
すまほ	スマホ	スマートフォンのこと		略語
せいふら	西プラ	西部プラザのこと	「どこいく？」「西プラ行こー」	店名・施設名等の固有名詞
せきにん	責任	責任実習のこと	「責任どうだった？」	キャンパス
せぶん	セブン	コンビニエンスストアの「セブンイレブン」のこと。	「セブン行かない？」	店名・施設名等の固有名詞
せわ	せわ	「大丈夫」の意味	「今日休んでもせわ？」	俚言（群馬県安中市）
せんたーわけ	センターわけ	前髪が真ん中でわかれていること	「ちいちゃんセンターわけになってる」	若者言葉
そうろん	総論	保育内容総論	「次の授業総論だよ」	キャンパス
そーなん	そーなん	「そうなんだ」の意味	「高校どこ？」「～」「そーなん」	若者言葉
そふてに	ソフテニ	ソフトテニスのこと		サークル
そふばん	ソフバン	ソフトバンクのこと	「ソフバン行こう」	略語
それな	それな	「そーだよね」と共感できること	「最近〇〇有名だよね」「それな」	若者言葉

だあ	だあ	ダーリンのこと	「だあくん」	若者言葉
だいく	第9	ベートーヴェン作曲交響曲第9番のこと		サークル
たいくり	タイクリ	文真堂書店の系列のCDレンタルショップ「タイムクリップ」のこと		店名・施設名等の固有名称
だいじ	だいじ	群馬の方言で「大丈夫」の意味	「痛い?」「だいじ〜」	俚言(栃木・群馬)
だいちゅー	大中	大間々中学校のこと	「中学どこ?」「大中」	学校名・地名
たかえき	高駅	高崎駅	「今日高駅に遊びに行くんだ」	学校名・地名
だから	ダカラ	「グリーンダカラ」の略	「ダカラ飲むー」	略語
だから	だから	「だよね」と共感する時につかう	「あの人イケメンだ」「だから〜」	俚言(福島)
たこぱ	タコパ	「たこ焼きパーティー」の略	「家でタコパしよう!」	略語
たじょ	太女	太田女子高等学校のこと	「高校どこ?」「太女」	学校名・地名
たしょう	太商	太田商業高等学校のこと	「たしょうでさ〜」	学校名・地名
たたか	太高	太田高等学校のこと	「高校どこ?」「太高」	学校名・地名
たてえき	館駅	東武伊勢崎線館林駅のこと	「館駅集合ね!」	学校名・地名
たてまつ	館祭	館林祭りのこと	「館祭行こう?」	略語
だぬ	だぬ	「〜だね」の意味	「今日もさむいね」「だぬ」	若者言葉
たひがし	太東	太田東高校のこと		学校名・地名
だぶり	だぶり	留年した人のこと		キャンパス

2015 年度関東短期大学キャンパスことばの調査報告（中野）

だぶる	ダブル	「注文ふたつ」	「〇〇ダブルおねがいします」	バイト
たべほ	たべほ	食べ放題のこと	「たべほ行きたい」	略語
たまあり	たまアリ	さいたまスーパーアリーナのこと	「どこでライブするの？「たまアリ」	略語
たわてら	タワテラ	タワーオブテラーのこと		略語
たんだい	短大	短期大学の略		略語
たんぷれ	誕プレ	誕生日プレゼントのこと		略語
ちあぶ	チア部	チアリーダー部のこと		サークル
ちきん	チキン	弱いこと、びびりなこと	「僕はチキンだ」	若者言葉
ちゃり	チャリ	自転車のこと	「チャリで来たー」	若者言葉
ちゃりつう	チャリ通	自転車通学のこと		若者言葉
ちょうはん	朝飯	群馬県を中心としたチェーン焼肉店「朝鮮飯店」のこと		店名・施設名等の固有名称
つむる	ツムる	アプリゲーム「ツムツム」をやること	「ひまだからツムろー」	若者言葉
ていーけーじー	TKG	たまごかけごはんの略		略語
ていえん	定演	定期演奏会のこと	「今度定演やるからきてね」	サークル
でいずにー	ディズニー	ディズニーランドのこと	「ディズニー行こうよ」	店名・施設名等の固有名称
てにぶ	テニ部	テニス部のこと		サークル
でんと	デント	学内施設「スチューデントホール」	「次の授業、デントでやるよ」	キャンパス

		のこと		
といまに	トイマニ	トイストーリーマ ニアのこと	トイマニ乗ろう	略語
とうぴ	とうぴ	透明のピアスのこ と	「とうぴ持って る？」	略語
どーむ	ドーム	東京ドームのこと	「ドームさんせんす るよ！」	店名・施設名 等の固有名 詞
とちえき	栃駅	栃木駅のこと	「集合場所どこ？ 「栃駅」	学校名・地名
とっぺ	トッペ	トイレットペーパ ーのこと	「トッペかして」	略語
どなでじ	ドナデジ	ディズニーキャラ クターのドナルド とデイジーのこと		略語
とぶこう	とぶこう	東武動物公園のこ と	「とぶこう行きた い」	店名・施設名 等の固有名 詞
どらくえ	ドラクエ	ゲーム「ドラゴン クエスト」のこと		略語
とりえ	トリエ	アーティストの 「AAA」のこと	「好きなアーティス トは？」 「トリエ」	若者言葉
とりべん	とり弁	群馬県の名物「鶏 めし弁当」の略	「とり弁たべたい」	略語
とりま	とりま	とりあえずまあ の略	「とりま、～しよ うよ。」	若者言葉
どんき	ドンキ	ドンキーホーテの こと	「ドンキ行かな い？」	略語
ないすキー	ナイスキー	バレーボールでい いスパイクが決ま った時に味方から 出る言葉		サークル

2015 年度関東短期大学キャンパスことばの調査報告（中野）

ないっさー	ナイッサー	バレーボールでい いサーブを打って ほしい時、もしくは それが決まった 時に味方から出る 言葉		サークル
なぐり	殴り	演劇用語でトンカ チのこと	「そこの殴りとって ー」	サークル
なつい	なつい	なつかしいの意味	(昔のものを見て) 「うわなつい！」	若者言葉
なにつう	何通	何で通学している か	「学校まで何通？」 「チャリ通」	略語
なべば	なべパ	なべパーティーの こと	「なべパしよう」	略語
なぼり	ナポリ	イタリア料理のチ ェーン店「ナポリ の食卓」のこと	「ナポリ行こう」	店名・施設名 等の固有名 詞
なんぐち	南口	太田駅南口のこと	「どこ集合？」「南 口」	学校名・地名
なんさ	～なんさ	語尾につける		俚言（栃木・ 群馬）
なんしょう	南小	藪塚本町南小学校		学校名・地名
なんちゅう	南中	太田南中学校のこ と	「中学どこ？」「南 中」	学校名・地名
なんちゅう	南中	笠懸南中学校のこ と	「中学どこ」「南中」	学校名・地名
なんなん	なんなん	「ありえない」の 意味	「ごめん、行けない や」「まじ、なんな ん！」	若者言葉
なんは	南羽	南羽駅のこと	「何羽何分発？」	学校名・地名
にいたん	新短	新島短期大学		学校名・地名
にしちゅう	西中	妻沼西中学校のこ と	「西中行こう」	学校名・地名

にばん	2番	トイレのこと	「ちょっと2番行っ てきます」	バイト
ねおち	寝落ち	作業中に寝てしま うこと		若者言葉
ねぼった	ねぼった	「ねぼうをした」 の意味	「やべ、ねぼった」	若者言葉
ねんばす	年パス	ディズニーリゾー トの年間パスポー トのこと	「年パスほしい」	略語
のざわ	ノザワ	桐生駅近くの「ノ ザワデリカ」とい う弁当屋のこと	「ノザワ行こー」	店名・施設名 等の固有名 詞
のっかり	乗っかり	他の人の運転する 車に乗ってくるこ と	「今日、なんで学校 きたん？」「乗っか り」	若者言葉
はーヴェ	ハーヴェ	栃木県小山市にあ るショッピングモ ール「ハーヴェス トウォーク」のこ と	「どこ行く？」「ハ ーヴェ」	店名・施設名 等の固有名 詞
ばあか	ばあか	「すごく、とても、 かなり」の意味	「ばあかかわいー」 「ばあかさみー」	俚言（新潟）
ばあばあ	ばあばあ	おばあちゃんのこと		若者言葉
はーぱん	ハーパン	「ハーフパンツ」 のこと	「ハーパン寒く ね？」	略語
ばいと	バイト	アルバイトのこと	「バイトだ↓」	略語
はくあし	白足	白鷗大学足利高等 学校のこと	「高校どこ？」「白 足」	学校名・地名
はける	はける	舞台上から退場す ること	「そこではけて」	サークル
ばすさー	バスサー	バスケットサーク ルのこと	「何のサークル入っ てるの？」「バスサ	サークル

2015 年度関東短期大学キャンパスことばの調査報告（中野）

			ー」	
ぱずとら	パズドラ	「パズル&ドラゴン」のこと		略語
ぱっしんぐ	バッシング	バイトで片付けのこと	「バッシングお願いします」	バイト
ぱっせん	バッセン	バッティングセンターのこと	「バッセン行こうぜ！」	略語
ばど	バド	バドミントン部のこと	「今日バドしよう！」	サークル
ばどぶ	バド部	バドミントン部のこと	「何部？」「バド部」	サークル
はとま	ハトマ	ハートマーケットのこと	ハトマ行こう。	店名・施設名等の固有名詞
はなまる	はなまる	はなまるうどんのこと		店名・施設名等の固有名詞
はぴば	ハピバ	「ハッピーバースデー」の意味	「今日〇〇の誕生日だって」「へー、ハピバじゃん」	略語
はま	はま	チェーン回転寿司店「はま寿司」のこと	「今日どこたべいく？」「はま！」	店名・施設名等の固有名詞
はらくっち	はらくっち	お腹いっぱい	「ラーメン食い過ぎてはらくっち」	俚言（福島）
ぱりぴ	パリピ	騒がしいことが好きな人	「あの人パリピだね」	若者言葉
はろしよ	ハロシヨ	ハロー！プロジェクトオフィシャルショップのこと	「ハロシヨ行きたい」	略語
ばんそこ	ばんそこ	絆創膏のこと	「ばんそこちょうだい！」	略語

ぱんふ	パンフ	関東短大の学校案内パンフレットのこと	「パンフに写真うつった」	キャンパス
ぴあの	ピアノ	科目名「器楽」のこと	「ピアノだ」	キャンパス
びーていー	BT	バイトの略	「遊ぼ!」「ごめん、今日 BT」	若者言葉
ひこ	ひこ	東武小泉線東小泉駅のこと	「ひこ着いたよ」「はい」	学校名・地名
びにん	ビニン	コンビニエンスストアのこと	「ビニンいってくる!」	略語
びば	ビバ	ホームセンター「ビバホーム」のこと	「ビバ行ってくるね」	店名・施設名等の固有名詞
びびり	ビビリ	ビビっている人のこと	「ビビリだな～」	若者言葉
ひょうげん	表現	保育内容表現のこと	「次の授業なに?」「表現」	キャンパス
ひょうげん	表現	科目名「保育内容・表現」のこと	「次、表現」	キャンパス
ひろしょう	広小	広沢小学校のこと		学校名・地名
ひろちゅう	広中	広沢中学校のこと		学校名・地名
ふあみぶ	ファミブ	かつて群馬にあった書店チェーン「ファミリーブック」のこと。現在は無い。	「DVD 借りにファミブいかない?」	店名・施設名等の固有名詞
ふあみま	ファミマ	コンビニエンスストアの「ファミリーマート」のこと	「ファミマいかね?」	店名・施設名等の固有名詞
ふあむ	ファミ	アクシズファミのこと		略語
ふあんもん	ファンモン	FUNKY MONKEY	「ファンモンのライ	略語

2015 年度関東短期大学キャンパスことばの調査報告（中野）

		BABYS のこと	ブ行こ〜！」	
ふーこー	フーコー	「フードコート」 の略	「とりあえず、フー コーに集まろう！」	略語
ふかいち	深一	深谷第一高等学校 のこと	「深一卒業」	学校名・地名
ふじいち	藤一	藤岡第一中学校の こと	「中学どこ？「藤一」	学校名・地名
ふじきゅー	富士急	遊園地「富士急ハ イランド」のこと	「春休み富士急いか ね？」	学校名・地名
ふらが	フラガ	北関東を中心に展 開するファミリー レストラン「フラ イングガーデン」 のこと	「どこいく？」「フ ラガ」	店名・施設名 等の固有名 詞
ぷり	プリ	プリント倶楽部の こと	「プリとろ〜！」	略語
ふりげー	フリゲー	フリーゲームのこ と	「このフリゲー面白 いよ」	略語
ぶんしん	文真	北関東を中心に展 開する書店チェー ン「文真堂」のこ と	「文真いこー」	店名・施設名 等の固有名 詞
ぶんどう	文堂	北関東を中心に展 開する書店チェー ン「文真堂」のこ と	「DVD 借りにいかな い？」	店名・施設名 等の固有名 詞
べいま	ベイマ	群馬県に本部をお くスーパーマーケ ット「ベイシアマ ート」のこと	「買い出しどこい く？」「ベイマでい いべ」	店名・施設名 等の固有名 詞
べーたー	ベーター	「エレベーター」 の略	「階段より、ベータ ー使おう！」	略語

べにまる	ベニマル	スーパーマーケットの「ヨークベニマル」のこと	「ベニマル行こう」	店名・施設名等の固有名称
へるめ	ヘルメ	ヘルメットの略	「ヘルメかぶんな」	略語
べるも	ベルモ	栃木県宇都宮市にある大型ショッピングモール「ベルモール」のこと	「ベルモ行こーぜ」	店名・施設名等の固有名称
ぺんら	ペンラ	ペンライトのこと		略語
ほーすぽ	ホースポ	学校の近くにある「ホーセンススポーツセンター」のこと	ホースポ行こう。	店名・施設名等の固有名称
ほーる	ホール	学校内施設「レクチャーホール」のこと		キャンパス
ぽかり	ポカリ	ポカリスエットのこと	「何飲む?」「ポカリ飲む」	略語
ほげん	保原	科目名「保育原理」のこと	「次の授業保原だよ」	キャンパス
ぽっこん	ポッコン	マカロニサラダのこと	「ポッコンたべたい」	その他
ぽっぽやき	ポッポ焼き	新潟名物の一つ。祭りの出店ででる。黒糖生地のお菓子		俚言（新潟）
ぽてこう	ポテ高	大泉高校のこと	「どこ高なん?」「ポテ高」	学校名・地名
ほらげー	ホラゲー	ホラーゲームのこと	「このホラゲー怖いよ」	略語
ほんまに	ほんまに	「ほんとうに?」の意味	「今日走ってきたんだ」「ほんまに!？」	若者言葉
まいふおん	マイフォン	「私のケータイ」	「マイフォンどこー」	若者言葉

2015 年度関東短期大学キャンパスことばの調査報告（中野）

		という意味	っ？」	
M ぽいんと	M ポイント	M 先生の授業の時にいい発言をした学生がもらえるポイントのこと。		キャンパス
まっく	マック	ファーストフード店「マクドナルド」のこと		略語
まねき	まねき	カラオケ店「まねきねこ」のこと	「まねきいこー」	店名・施設名等の固有名詞
ままこう	間々高	大間々高校のこと	「高校どこ？」「間々高」	学校名・地名
まるきゅー	マルキュー	渋谷 109 のこと		略語
まるご	0 5	カラオケ店のサンマルゴのこと	「マルゴいこー」	店名・施設名等の固有名詞
ミーていー	ミーティー	ミルクティーの略	「何飲む？」「ミーティー」	略語
みすど	ミスド	ミスタードーナツのこと		店名・施設名等の固有名詞
みすぷり	ミスプリ	「ミスプリント」のこと	「これミスプリ」	略語
みっぷ	ミップ	コンビニエンスストアの「ミニストップ」のこと。	「次空き時間だからミップいかない？」	店名・施設名等の固有名詞
みどじゃー	緑ジャー	緑ジャージの略。自分の学年のジャージの色	「緑ジャーのチャックこわれた」「まじで」	略語
みにす	ミニス	ミニストップのこと	「ミニスイこー」	店名・施設名等の固有名詞

みにすか	ミニスカ	ミニスカートのこ と	「めっちゃミニスカ じゃん」	略語
みにすと	ミニスト	コンビニエンスス トアの「ミニスト ップ」のこと。	「次空き時間だから ミニストいかな い？」	店名・施設名 等の固有名 詞
みや	宮	チェーンレストラ ン「ステーキ宮」 のこと		店名・施設名 等の固有名 詞
むらすぽ	ムラスポ	スポーツショップ 「ムラサキスポー ツ」のこと	「ムラスポ行くべ」	店名・施設名 等の固有名 詞
めいちゅう	明中	明和中学校のこと	「どこ中?」「明中」	学校名・地名
めいと	メイト	「アニメイト」の こと		店名・施設名 等の固有名 詞
めぐす	めぐす	テレビのチャンネ ルをかえる	「ねー、8ちゃんね るにめぐして」	俚言
めんど	めんど	面倒くさいこと	「ちょーめんどー」	若者言葉
もす	モス	ファーストフード 店「モスバーガー」 のこと	「どこいくー?」「モ スイこ」	店名・施設名 等の固有名 詞
もどし	戻し	バイトで補充のこ と	「今日バイトずっと 戻しだった」	バイト
もにこ	モニコ	「モーニングコー ル」の略	「明日モニコし て!」	略語
もんすと	モンスト	スマホゲーム「モ ンスターストライ ク」の略		略語
もんはん	モンハン	ゲーム「モンスタ ー・ハンター」の こと		略語
やしゅう	野州	野州山辺駅のこと	「やしゅうに○時に つくよ!」	学校名・地名

2015 年度関東短期大学キャンパスことばの調査報告（中野）

やぶちゅう	藪中	藪塚本町中学校のこと		学校名・地名
ゆにく	ユニク	チェーン店「ユニクロ」のこと	「それどこの服？」 「ユニクだよ」	店名・施設名 等の固有名詞
ゆにば	ユニバ	「ユニバーサルスタジオジャパン」のこと	ユニバ行きたい	学校名・地名
よーく	ヨーク	スーパーマーケット「ヨークベニマル」のこと	「ヨークいくべ」「いいよ」	店名・施設名 等の固有名詞
よこあり	横アリ	横浜アリーナのこと	「横アリでコンサートだ」	店名・施設名 等の固有名詞
よさぶ	よさ部	よさこい部のこと		サークル
よっちゅう	寄中	寄居中学校のこと		学校名・地名
よんばん	4番	ドラックの人を呼ぶこと	「〇〇レジ4番対応 お願いします」	バイト
よんばん	4番	バイト中にトイレに行くこと	「4番行ってきまーす」	バイト
らーだ	ラーダ	桐生駅前の弁当屋「ストラーダ」の略	「どこの弁当？」 「ラーダ」	店名・施設名 等の固有名詞
らうわん	ラウワン	ラウンドワンのこと	「ラウワン行こうぜ！」	店名・施設名 等の固有名詞
らぶほ	ラブホ	ラブホテルのこと		略語
らんど	ランド	ディズニーランドのこと	「ランド行こうぜ！」	店名・施設名 等の固有名詞
り	り	「了解」の意味	「～して」「り」	略語
りくぶ	陸部	陸上部のこと	「今日何の試合があるの？」 「陸部」	サークル

りとみ	リトミ	科目名「リトミック」のこと	「次の授業、リトミ」	キャンパス
りも	リモ	リモコンの略	「リモ取って」	略語
りよ	りよ	了解の意味。	「〇時に帰るよ！」 「りよ」	若者言葉
れいく	レイク	レイクタウンのこと	「レイク行こう」	略語
れくちやー	レクチャー	レクチャーホールのこと		キャンパス
れくろん	レク論	レクリエーション論のこと	「火曜の4限なに？」 「レク論」	キャンパス
ろって	ロツテ	ファーストフード店「ロツテリア」のこと	「ロツテいこー」	略語
ろんていー	ロンT	長袖Tシャツのこと	「今日ロンTだよ」	略語
わいしよ	Yショ	ヤマザキショップのこと		店名・施設名等の固有名詞
わいでいーけー	YDK	「やればできるこ」の意味	「私、YDKだから」	若者言葉

ヴェルボトナル言語教育研究所 2015年度 活動報告

関東短期大学「ヴェルボトナル言語教育研究所」の活動方針は、聴覚言語障害児を対象とした聴き取り指導、発音指導、言語指導、そしてそれらの指導法の研究、またヴェルボトナル理論と技法の普及である。

1. 指導活動

・指導は、館林（研究所）と仙台（仙台市福祉プラザ）で実施した。

活動場所	生徒数	生徒学年	指導頻度
館林 （研究所）	10名	幼稚園年長 ～成人	週1回～月1回 ※生徒のレベルによる
仙台 （仙台市福祉プラザ）	5名	幼稚園年長 ～小学校6年生	年4回 ※指導相談会として実施

2. 指導法研究

・発達障害児を対象とした発音や発話を促す技法に焦点を当てた。特に、発達障害児のなかでも、話し言葉は理解しているものの、発音や発話が困難な子どもたちを対象としている。

・10月17日（土）に愛知県産業労働センターで開催された「第60回日本音声言語医学会 ポストコンgresセミナー：人工内耳による聴覚(リ)ハビリテーションの実際」に研究員が参加した。人工内耳装用手術以降の療育・指導の重要性が指摘され、様々な指導方法について見識を深められた。

3. 普及活動

・普及活動は、主に夏期講習会と短大授業内で実施した。

	参加者数	参加者所属	普及活動内容	実施時期
夏期講習会	16名	・市内小学校 ことばの教室 教員 ・言語聴覚士 ・保護者	理論紹介 指導法説明 ※指導法説明の際には、 研究所の生徒(7名)が 参加	2015年 8月8日
短大授業内	56名	「ことばの障 害」履修者		

・来年度も子ども学科の教育に資するような活動としていくことを考えている。

こども研究センター 2015年度 活動報告

関東短期大学「こども研究センター」は、子どもの教育や保育に関する研究をするとともに、その成果を地域に還元することを目的としている。

1. 地域の子育て家庭支援

地域の子育て中の2～3歳の子どもの子育てをしている保護者を対象にした公開講座を以下の日程・内容で開催した。なお、年少児の保護者も参加しやすいように、本学学生ボランティアと教員による2歳以上の子どもの託児サービスも行った。全3回の講座において、のべ24名が参加した。受講後のアンケート結果から、いずれの講座においても、受講生が講座に対して満足している様子が見られた。

「パパ・ママいきいき子育てレッスン 1・2・3 (ワン・ツー・スリー)」

	開催日	講座名	講師
第1回	8/29(土)	子どもと一緒に楽しく遊ぶ方法	こども学科・教授 森静子
第2回	9/19(土)	子どもの発達としつけ	こども学科・教授 木村たか子
第3回	10/3(土)	子どもの食事	こども学科・講師 水野三千代

2. 地域の保育者への支援

リカレント教育の一環として、こども学科卒業生を対象にした「こども学科卒業生の集い」をアザリア祭(10月25・26日)にて開催した。両日とも、13～15時という限られた時間ではあったが、51名の卒業生が来場した。先生方や同級生たちと旧交を温めるとともに、先生方に職場での悩みやキャリア形成に関する相談などができる場となったようだ。

来年度以降も、引き続き、こども学科での研究・教育成果を地域に活用すべく様々な活動に取り組んでいきたい。

関東短期大学紀要 第58集

—執筆者紹介—

松尾 由美	関東短期大学講師	社会心理学
中野 真樹	関東短期大学講師	日本語学
林 智草	関東短期大学助教	芸術学

(執筆者順)

紀要刊行委員会

藤里紘子・松尾由美・武藤康司 (五十音順)

2016年3月31日発行

〒374-8555 群馬県館林市大谷町 625

発行所 関東短期大学

電話 (0276)74-1212(代表)

F A X(0276)74-1215

KANTO JUNIOR COLLEGE BULLETIN

No.58

March 31, 2016

Contents

< Practice Report >

Do participants of orange ribbon campaign promote a better understanding of child
abuses? *Yumi MATSUO* (1)

<Articles>

An Attempt of Easy Japanese Lecture at Nursery Teacher Training School for the
Children of Foreign Nationals and Their Parents *Maki NAKANO* (7)

Examination of Piano Instruction in College of Child Care -Focus on the Ability
Building of Score Reading *Chigusa HAYASHI*(18)

<Research Material>

Research on campus words used at Kanto Junior College in 2015
. *Maki NAKANO*(26)

<Annual activity reports>

Activity reports 2015: Verbotonal Research Institute for Language Education (63)

Activity reports 2015: Child Care Research Center (64)
